

1400GTR

オーナーズハンドブック

ご使用になる前に必ずこのオーナーズハンドブックをお読みください。

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

※この製品には三菱電機株式会社が開発した暗号アルゴリズム“Misty”が使用されています。

ご愛用の皆様に

このオーナーズハンドブックには、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、このオーナーズハンドブックを是非お読みください。

- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。

本書では正しい取り扱い方法および点検、整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

- 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

目次

安全運転のために.....	5	ステアリングロック警告メッセージ/ シンボルマーク.....	50
主要諸元	13	タイヤ空気圧警告メッセージ/シン ボルマーク	52
各部の名称	17	タイヤ空気圧センサバッテリー警告 メッセージ/シンボルマーク	54
エンジン番号・車台番号	20	携帯機警告メッセージ/シンボル マーク	55
メータの見方、使い方.....	21	(L) 油圧警告灯.....	59
メータユニット	21	(M) ABSインジケータライト	59
(A) スピードメータ.....	22	KIPASSシステムについて	61
(B) タコメータ/(C) レッドゾーン	22	KIPASS (Kawasaki's Intelligent Proximity Activation Start System)	
(D) マルチファンクションメータ	22	システム	61
タイヤ空気圧	33	エンジンの始動	61
(E) アップボタン/(F) ロアボタン ...	45	携帯機.....	63
(G)/(H) ターニングナルインジケー タライト(レフト・ライト)	45	携帯機の電波送受信の可能範囲 .	70
(I) ニュートラルインジケータライト..	45	KIPASSシステムが正しく作動しない 時	70
(J) ハイビームインジケータライト ...	45		
(K) 警告灯.....	46		
FI警告メッセージ/シンボルマーク .	47		
イモビライザ警告メッセージ/シンボ ルマーク	49		

KIPASSシステムのご使用にあたって	71	ヘッドライト調整用アジャスタノブ	99
スイッチの使い方	73	アクセサリソケット／コネクタ	99
ハンドルロックユニット	73	サスペンションセッティング	101
ステアリングロック	78	燃料の補給	107
ディマスイッチ	80	正しい運転操作	111
ターンシグナルスイッチ	81	エンジンのかけ方	111
ホーンボタン	82	ならし運転	113
パッシングボタン	82	走り方	114
ウインドシールドアジャスティングボタ ン	83	シフトダウンの仕方	115
エンジンストップスイッチ	84	ブレーキの使い方	116
スタータボタン	84	アンチロックブレーキシステム (ABS) ..	118
ハザードスイッチ	85	ABSインジケータライト	119
各部の取り扱い方	86	エンジンの止め方	120
スタンド	86	エンジンの非常停止	121
ブレーキ/クラッチレバーアジャスタ...	87	駐車の仕方	121
シート	88	点検整備について	124
サドルバッグ	91	簡単な整備	126
小物入れ	96	ブレーキ液量の点検	127
リヤキャリア	97	ブレーキライトスイッチの調整	128
ツールキット	98	クラッチ液量の点検	130
エアインテーク	98	エンジンオイルの補給	131
		ファイナルギヤケースオイルの補給 ..	134
		冷却液	135

スパークプラグ	138
エアクリナエレメントの交換	139
スロットルケーブルの遊び調整	145
アイドルリング回転速度の調整	146
タイヤ	147
バッテリーターミナル部の清掃	151

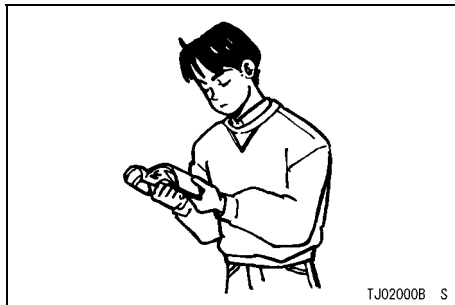
ヒューズの交換	158
車のお手入れ	161
長期間の格納	165
環境保護について	167
万一の故障に備えて	169

安全運転のために

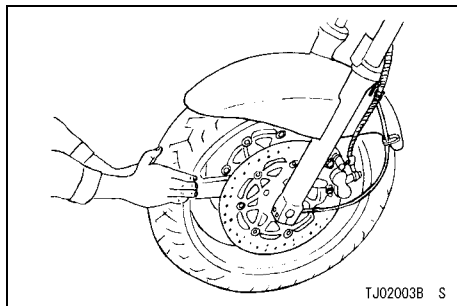
ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

運転する前に

- **オーナーズハンドブックをよく読んでください。**車の取り扱いをよくご存じの方も、この車の特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。

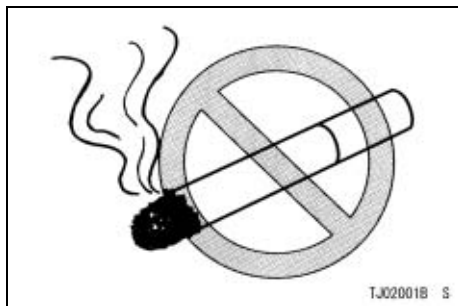


- **日常点検を必ず行ってください。**車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。

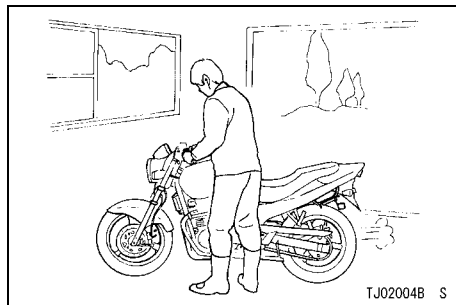


6 安全運転のために

- 定期点検を必ず行ってください。ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

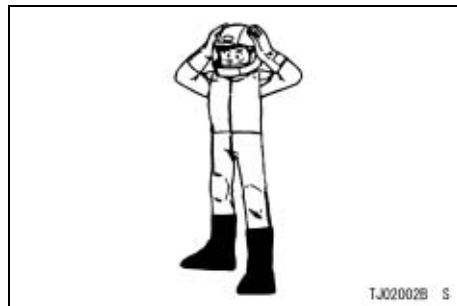


- 排気ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。



服装

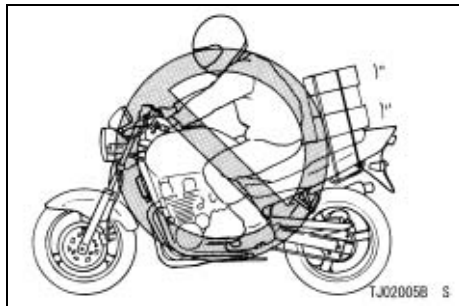
- **運転者を守るヘルメットを必ず着用しましょう。グローブ、ゴーグル等も着用するよう心がけてください。**ヘルメットはS、PS(C)、SGまたはJISマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- 明るく目立つ色の動きやすい服装で、体の露出が少ないものを着用してください。また、すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすい、かかとの低い運動しやすい靴をはいてください。
- **同乗者にも上記の注意を励行させてください。**



8 安全運転のために

荷物を積むときは

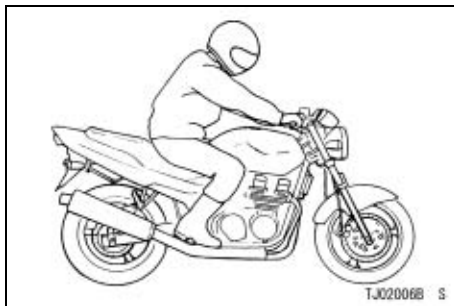
- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。サドルバッグに荷物を積むときは、“**積み過ぎない**”、“**荷物をしっかりと固定する**”、“**左右均等に積む**”、等十分注意して、安全に走行してください。



A. サドルバッグ

乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップにませさせてください。

この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

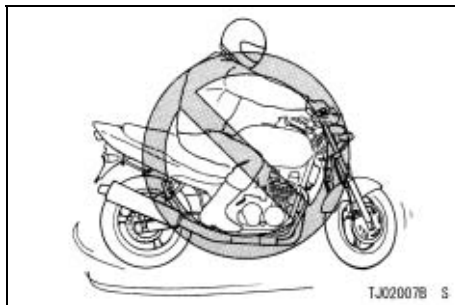
一般道路

免許取得後1年未満の運転者

高速道路

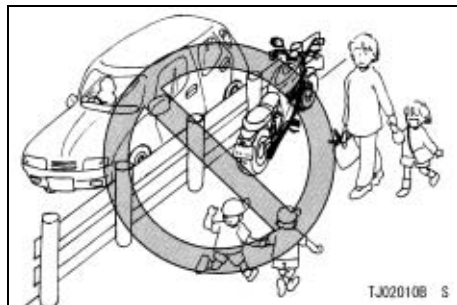
免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- 急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。



駐車するときは

- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。



10 安全運転のために

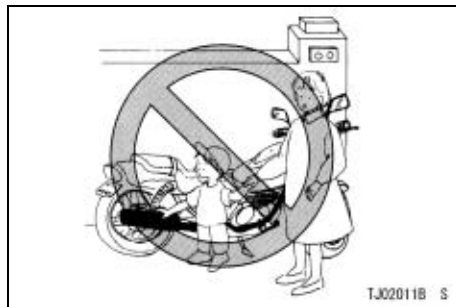
- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。



警告

マフラ、エンジンは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は高温になるため、引火し、火災およびやけどを引き起こすおそれがあります。

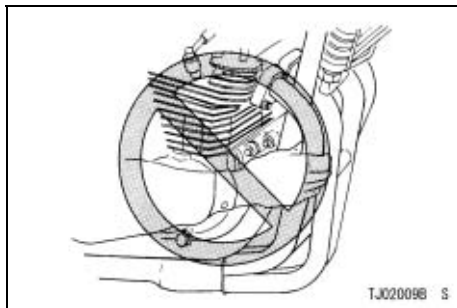
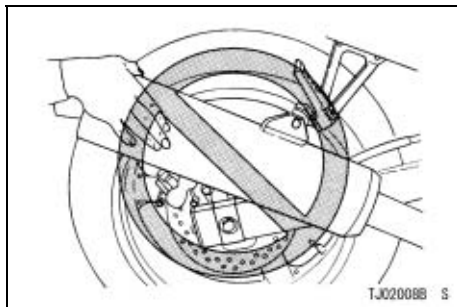
マフラ、エンジンが草、枯れ葉等燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。



警告

熱くなってるマフラ、エンジンに触れるとやけどをすることがあります。

エンジンの回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。



洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に十分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はブライト取扱店におまかせください。

触媒装置

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出

12 安全運転のために

ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NO_x)の有害物質の排出量を低減します。

触媒装置の適切な使用のため、以下の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになりま**す。
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はブライト取扱店へご相談ください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、エンジンが始動してスタータボタンを放すと、ヘッドライトが点灯するデ

ライトシステム(昼間点灯システム)を採用しています。

- 通常はヘッドライトをロービームにして走行しましょう。

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ブレーキ液、ガソリン、洗浄液等の化学物質が、スクリーンやカウリング本体にかかる、損傷の原因となりますので注意してください。
- スクリーンを洗浄する時は、表面を傷つけないように、水またはぬるま湯をかけながら、柔らかい布またはスポンジで拭いてください。

主要諸元

性能

最高出力	110 kW (150 PS) @8 800 rpm
最大トルク	136 N·m (13.9 kgf·m) @6 200 rpm

寸法・重量

全長	2 270mm
全幅	1 000 mm
全高 (ハイポジション)	1 290 mm (1 405 mm)
軸間距離	1 520 mm
最低地上高	125 mm

エンジン

型式	4ストローク, 4シリンダ, DOHC, 水冷
総排気量	1 352 cm ³
内径 × 行程	84.0 × 61.0 mm
圧縮比	10.7 : 1
キャブレションシステム	FI (フューエルインジェクション)

14 主要諸元

点火方式	バッテリー&コイル(トランジスタ点火)
進角方式	電子進角
点火時期	上死点前10°/1 100
始動方式	セル方式
潤滑方式	ウェットサンプ式
エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル
エンジンオイル量	4.7 L
冷却液量	3.4 L
スパークプラグ	NGK CR9EIA-9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

動力伝達装置

トランスミッション型式	6段リターン式
クラッチ	湿式多板式
後輪駆動方式	シャフトドライブ
一次減速比	1.556 (84/54)
二次減速比	2.036 (14/22 × 32/10)
総減速比	3.402 (6速)

変速比:	1速	3.333 (50/15)
	2速	2.412 (41/17)
	3速	1.900 (38/20)
	4速	1.545 (34/22)
	5速	1.292 (31/24)
	6速	1.074 (29/27)

フレーム

キャスタ		26.1°
トレール		112 mm
タイヤサイズ	前輪	120/70 ZR17 M/C (58W) チューブレス
	後輪	190/50 ZR17 M/C (73W) チューブレス
燃料タンク容量		22 L

電装品

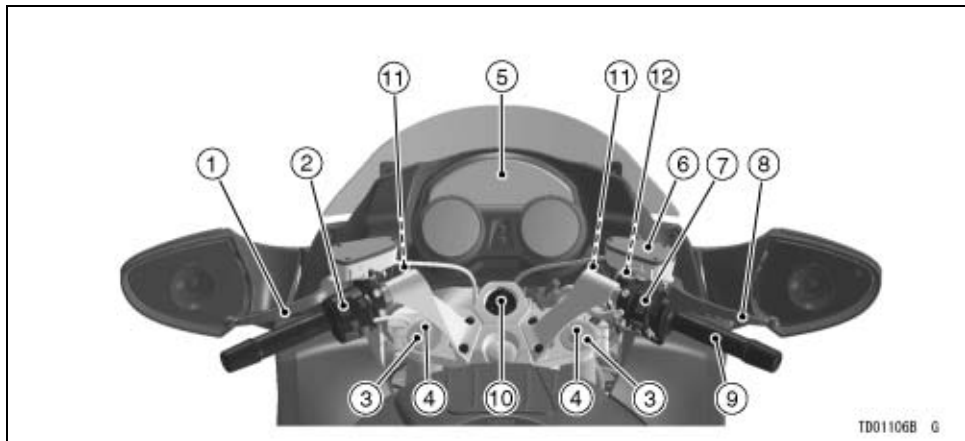
バッテリー		12 V 14Ah
ヘッドライト	ハイビーム	12 V 60 W × 2
	ロービーム	12 V 55 W × 2
LEDテール／ブレーキライト		0.1/1.6 W

16 主要諸元

この車のテール／ブレーキライトにはLED(発光ダイオード)を採用しています。LEDテール／ブレーキライトが一つでも点灯しない時は、ブライツ取扱店にご相談ください。

(主要諸元は予告なく変更される場合があります)

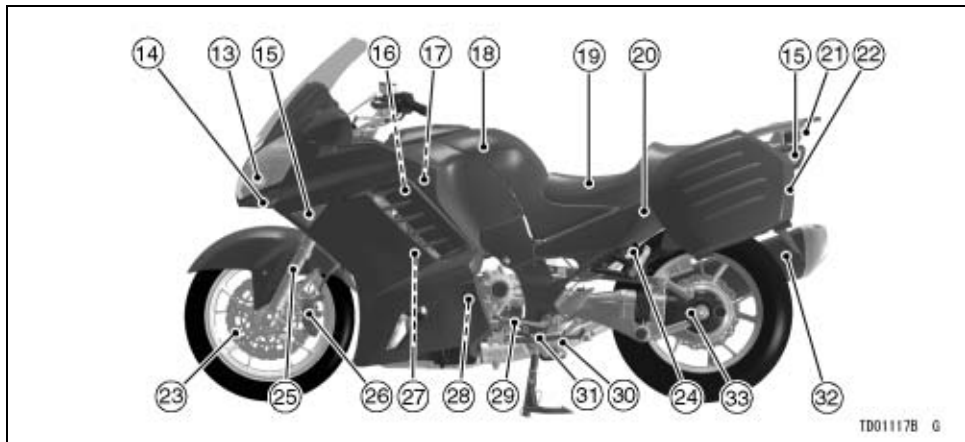
各部の名称



1. クラッチレバー
2. 左ハンドルスイッチ
3. スプリング初期荷重アジャスタ
4. 伸側減衰力アジャスタ
5. メータユニット
6. ブレーキリザーバ(フロント)

7. 右ハンドルスイッチ
8. フロントブレーキレバー
9. スロットルグリップ
10. ハンドルロックユニット
11. ヘッドライト調整用アジャスタ
12. アクセサリソケット

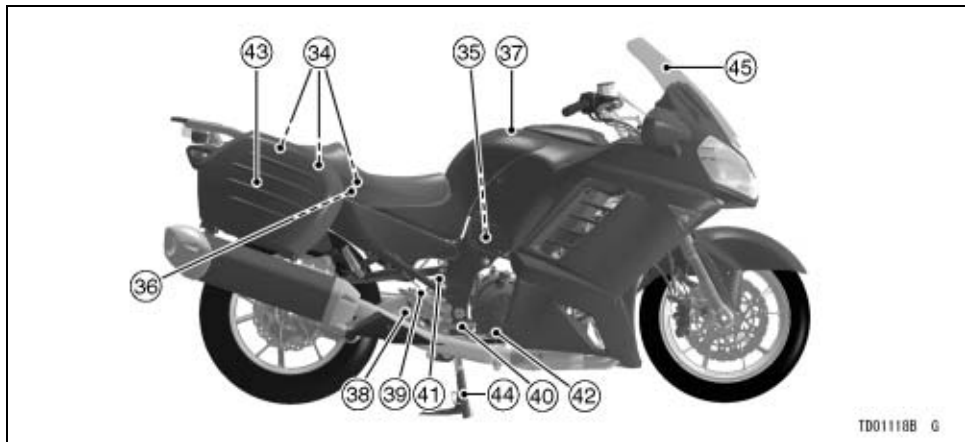
18 各部の名称



- 13. ヘッドライト
- 14. エアインテーク
- 15. ターニングナルライト
- 16. スパークプラグ
- 17. エアクリーナ
- 18. 燃料タンク
- 19. シート
- 20. シートロック

- 21. テール/ブレーキライト
- 22. ライセンスプレートライト
- 23. ディスク
- 24. スプリング初期荷重アジャスタ
- 25. フロントフォーク
- 26. キャリパ
- 27. 冷却液リザーブタンク

- 28. アイドルアジャスティングスクリュー
- 29. シフトペダル
- 30. 伸側減衰力調整アジャスタ
- 31. サイドスタンド
- 32. マフラ
- 33. ファイナルギアケース



- 34. ヒューズボックス
- 35. バッテリ
- 36. ブレーキリザーバ (リヤ)
- 37. 燃料タンクキャップ
- 38. スイングアーム
- 39. リヤブレーキライトスイッチ

- 40. リヤブレーキペダル
- 41. リヤショックアブソーバ
- 42. オイルレベルゲージ
- 43. サドルバック
- 44. センタースタンド
- 45. ウインドシールド

エンジン番号・車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はブライト取扱店に部品を注文する時に必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似かよった車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号

車台番号



A. エンジン番号

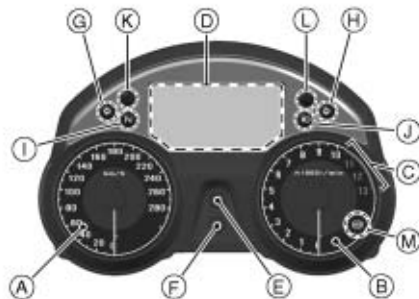


A. 車台番号

メータの見方、使い方

メータユニット

- A. スピードメータ
- B. タコメータ
- C. レッドゾーン
- D. マルチファンクションメータ
- E. アップボタン
- F. ロアボタン
- G. レフトターンシグナルインジケータライト
- H. ライトターンシグナルインジケータライト
- I. ニュートラルインジケータライト
- J. ハイビームインジケータライト
- K. 警告灯
- L. 油圧警告灯
- M. ABSインジケータライト



22 メータの見方、使い方

(A)スピードメータ

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。ハンドルロックユニットをONの位置にすると、スピードメータの指針は動作確認のため、最大速度まで動き、その後“0”に戻ります。もし、スピードメータの指針が正常に動かないときは、ブライツ取扱店にご相談ください。

(B)タコメータ/(C)レッドゾーン

タコメータは毎分のエンジン回転数を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。

指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。

ハンドルロックユニットをONの位置にすると、タコメータの指針は、動作確認のため、最大回転数まで動き、その後“0”に戻ります。もし、タコメータの指針が正常に動かないときは、ブライツ取扱店にご相談ください。

注意

レッドゾーンは、エンジン許容回転数オーバを示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジンが不円滑になりエンジンの寿命に悪影響を与えます。

(D)マルチファンクションメータ

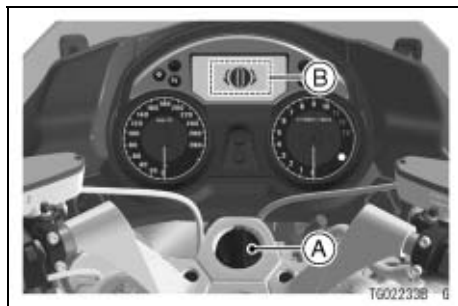
マルチファンクションメータは、次の機能を表示します。

- オドメータ
- トリップメータA・B
- 時計
- バッテリ電圧
- 平均燃費・瞬間燃費・航続可能距離
- タイヤ空気圧
- ギヤポジション
- 水温計
- 燃料計

アップボタンを押すと、マルチファンクションメータ内の表示は次のように切り替わります。
 AVERAGE (平均燃費) → CURRENT (瞬間燃費) → RANGE (航続可能距離) → TIRE F/R (タイヤ空気圧) → BATTERY (バッテリー電圧)。

ロアボタンを押すと、マルチファンクションメータ内の表示は次のように切り替わります。

TRIP A (トリップメータA) → TRIP B (トリップメータB) → ODO (オドメータ)。。



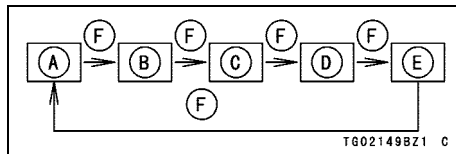
- A. ノブキー
- B. ノブキーシンボル

ノブキーシンボルがマルチファンクションメータに 5 秒間表示され、ノブキーを ON の位置にすると、3 秒間 "Kawasaki" が表示されます。次に、選択されたモードに応じて、平均燃費、瞬間燃費、航続可能距離、タイヤ空気圧、バッテリー電圧、トリップメータ、オドメータの、いずれかが表示されます。

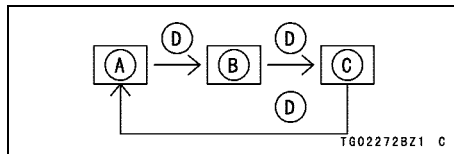


A. Kawasaki表示

24 メータの見方、使い方



- A. AVERAGE (平均燃費)
- B. CURRENT (瞬間燃費)
- C. RANGE (航続可能距離)
- D. TIRE F/R (タイヤ空気圧)
- E. BATTERY (バッテリー電圧)
- F. 切り替え順序 (アップボタンを押す)



- A. ODO (オドメータ)
- B. TRIP A (トリップメータA)
- C. TRIP B (トリップメータB)
- D. 切り替え順序 (ロアボタンを押す)

注意

走行中はマルチファンクションメータの表示を切り替えしないでください。

マルチファンクションメータ内で次の機能を、“設定画面”にて設定を変更することができます。詳しくは“設定画面”の項目を参照してください。

- 言語設定メニュー: 英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語
- 単位設定メニュー(TIRE PRESSURE): KPA、PSI
- 単位設定メニュー(MILEAGE): KM/L、L/100 KM、MPG USA、MPG UK
- 時刻設定メニュー



- A. タイヤ空気圧単位設定メニュー: KPA、PSI
 B. 燃費単位設定メニュー: KM/L、L/100 KM、MPG USA、MPG UK
 C. 時刻設定メニュー

オドメータ(ODO)/トリップメータ(TRIP A・TRIP B)

オドメータとトリップメータはロアボタンを押すとODO、TRIP A、TRIP Bに切り替えることができます。

26 メータの見方、使い方

“ODO”

走行した総走行距離を示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0”に戻すことはできません。

要点

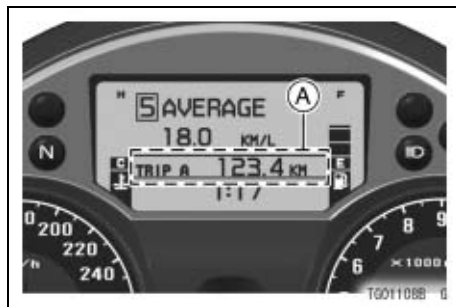
- オドメータは、バッテリーを取り外したときでも、リセットされません。
- オドメータは、999999までカウントできます。
- オドメータに使用される単位表示は、“設定画面”にて変更することができます。

“TRIP A・TRIP B”

メータを“0.0”に戻した時点からの走行距離を示します。

TRIP A: 0.0 ~ 999.9

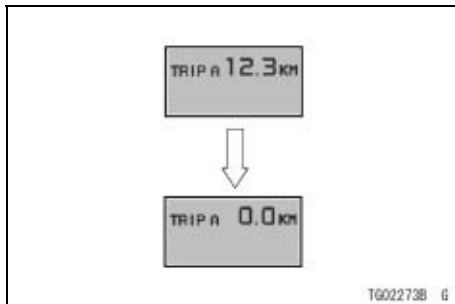
TRIP B: 0.0 ~ 9999.9



A. オドメータ(ODO)/トリップメータ(TRIP A)/トリップメータ(TRIP B)

トリップメータを“0.0”に戻すときは、下記の手順で行います。

1. ロアボタンを押して、TRIP A(トリップA)またはTRIP B(トリップB)を表示します。
2. ロアボタンを押し続けます。



要点

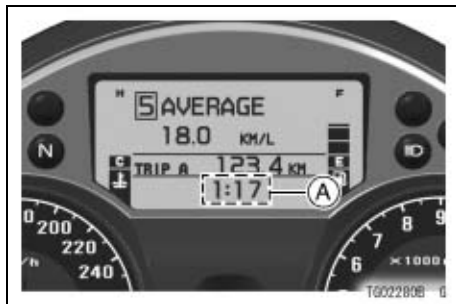
- トリップメータは、ハンドルロックユニットがOFFの位置でも“0.0”に戻りません。
- バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、トリップメータは“0.0”に戻ります。

- トリップメータは、999.9(トリップメータA)または9999.9(トリップメータB)までカウントしたとき、トリップメータは“0.0”に戻ります。
- トリップメータに使用される単位表示は、“設定画面”にて変更することができます。

時計

時刻を表示します。

時刻の調整の仕方は、“設定画面”の項目を参照してください。



A. 時計

28 メータの見方、使い方

要点

- 時計はバッテリーによって、ハンドルロックユニットがOFFの位置でも動いています。しかし、バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、表示時間を調整する必要があります。

バッテリー電圧

“BATTERY”

バッテリー電圧を数値で表示します。

- アップボタンを押して、表示を“BATTERY”に切り替えてください。



A. バッテリー電圧

要点

- バッテリー電圧が9.0 V以下または16.0 V以上になったときは、バッテリー電圧の表示は正しい値を表示しないことがあります。

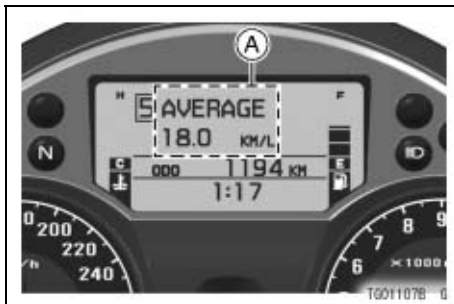
- 表示されるバッテリー電圧の値は、他の電圧計で測定した値と異なる場合があります。

平均燃費

“AVERAGE”

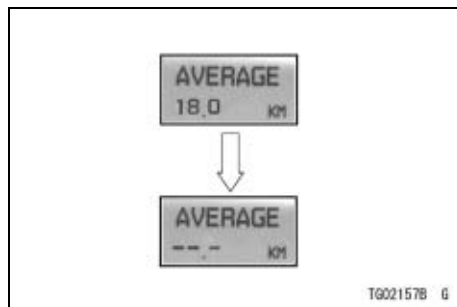
測定を開始したところから現在までの平均の燃料消費量を数値にて表示します。

- アップボタンを押して、表示を“AVERAGE”に切り替えてください。



A. 平均燃費

- リセットするときは、平均燃費を表示中にアップボタンを2秒以上押してください。その後、“--.-”が表示されます。



要点

- 平均燃費の値は、ハンドルロックユニットがOFFの位置でもリセットされません。しかし、バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、平均燃費の値はリセットされ、“--.-”が表示されます。
- 平均燃費に使用される単位表示は、“設定画面”にて変更することができます。

30 メータの見方、使い方

- 平均燃費の値をリセットした後、次に平均燃費の値が表示されるまでには、燃料が5 ml消化され、さらに100 m以上走行しないと表示されません。

瞬間燃費

“CURRENT”

瞬間の燃料消費量を数値にて表示します。
表示される瞬間燃費の値は、4秒ごとに更新されます。



A. 瞬間燃費

要点

- この表示は平均の燃料消費量ではなく、瞬間の燃料消費量です。
- 瞬間燃費に使用される単位表示は、“設定画面”にて変更することができます。
- 瞬間燃費の値は一度リセットされると、時速5 km/h以上で走行し、さらに4秒経過するまでは“— — —”が表示されます。



A. 瞬間燃費

航続可能距離

“RANGE”

燃料タンク内の燃料残量から航続可能距離を数値にて表示します。表示される航続可能距離の値は、10秒ごとに更新されます。



A. 航続可能距離

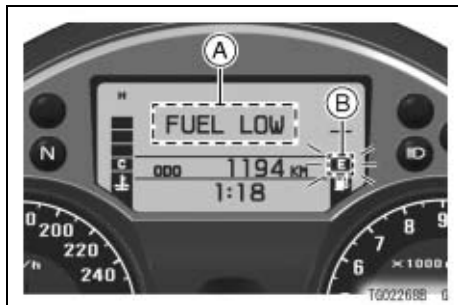
- 燃料タンク内の燃料が22 Lになると、燃料ゲージの全6セグメントが点灯し、表示される航続可能距離に“(+)”が表示されます。



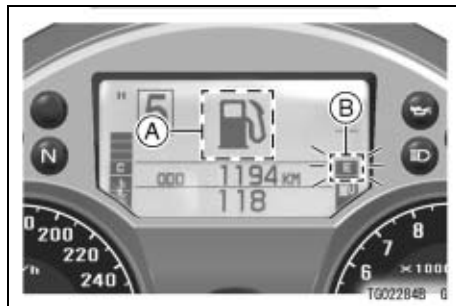
A. “(+)”表示

32 メータの見方、使い方

- 燃料ゲージが、残り1つのセグメント(E)のみ表示されると燃料警告メッセージ“FUEL LOW”と燃料警告シンボルが画面に交互に表示されます。この時は、航続可能距離の値は表示されません。



- A. 燃料警告メッセージ“FUEL LOW”
- B. 燃料ゲージ



- A. 燃料警告シンボル
- B. 燃料ゲージ

要点

- 航続可能距離に使用される単位表示は、“設定画面”にて変更することができます。
- 航続可能距離の表示範囲は、0～999の範囲で表示できます。

タイヤ空気圧

“TIRE F/R”

タイヤの空気圧を表示します。メータに表示される空気圧は、時速約20km以上で走行し、さらに1分経過すると表示します

走行中にタイヤの空気圧が低下したときは、インジケータメッセージを表示します。

TIRE F: 前輪タイヤ空気圧

TIRE R: 後輪タイヤ空気圧

- タイヤの空気圧を表示するためには、アップボタンを押して表示を切り替えます。



A. タイヤ空気圧

要点

- タイヤ空気圧は350kPaまで表示することが出来ます。
- メータに表示される空気圧の値は、タイヤの空気圧測定に使用しないでください。この値は、実際のタイヤ空気圧を示していません。

34 メータの見方、使い方

場合がありますので、走行中の参考値としてのみ使用してください。

- メータに表示される空気圧の値は、標準値より若干高く、または低く表示されることがあります。空気圧を測定するときは、簡単な整備の章のタイヤの項目を参照してください。
- 空気圧の表示単位は、変更することが出来ます。設定メニューの項目を参照してください。
- タイヤを交換するときは、空気圧が正しく表示されるかどうか確認してください。
- タイヤ空気圧センサは、電波を発生します。ノイズが多い場所、または強力な電波が存在する場所では、タイヤの空気圧が正しく表示されない場合があります。
- もし、走行中タイヤの空気圧が正しく表示されないときは、ブライト取扱店にご相談ください。
- 空気圧が適正でない場合は、“簡単な整備”の章の“タイヤ”の項を参考にして、空気圧を適正に保ってください。

ギヤポジション

現在のギヤの位置を表示します。ギヤがニュートラルのときは、マルチファンクションメータ内に“N”が表示され、ニュートラルインジケータライトが点灯します。

- 1: ギヤが1速に入っているときは、“1”を表示します。
 - 2: ギヤが2速に入っているときは、“2”を表示します。
 - 3: ギヤが3速に入っているときは、“3”を表示します。
 - 4: ギヤが4速に入っているときは、“4”を表示します。
 - 5: ギヤが5速に入っているときは、“5”を表示します。
- OD: ギヤがオーバドライブ (OD) に入っているときは、“OD”を表示します。



- A. ギヤポジション
- B. ニュートラルインジケータライト

要点

- ニュートラルインジケータライトが消灯し、マルチファンクションメータ内のギヤポジ

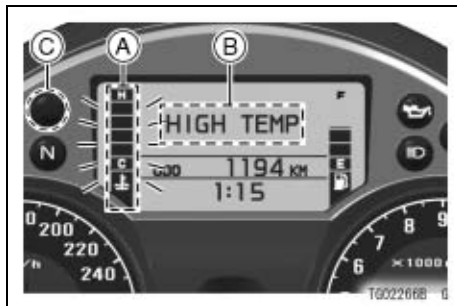
ションが“N”を表示しているときは、ギヤが正しく1速に入っていません。ギヤを確実に入れてください。

水温計

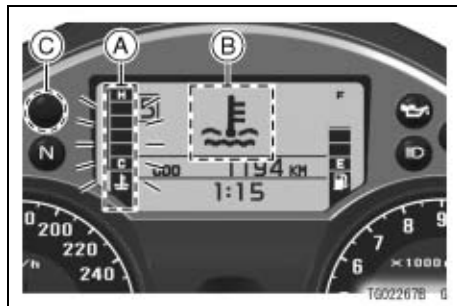
冷却液の温度を示します。

水温は水温計内のCとHの間をセグメントによって表示されます。もし、水温計が正しく表示されないときは、ブライト取扱店にご相談ください。もし、水温が120℃以上になったときは、全6セグメントが表示され、点滅し始めます。さらに水温警告メッセージ“HIGH TEMP”と水温警告シンボルが画面に交互に表示されます。表示された場合には、エンジンを止め、リザーブタンクの冷却液の量を点検してください。

36 メータの見方、使い方



- A. 水温計
- B. 水温警告メッセージ“HIGH TEMP”
- C. 警告灯



- A. 水温計
- B. 水温警告シンボル
- C. 警告灯

注意

水温計の全セグメントが点灯し、水温警告メッセージと水温警告シンボルが表示されたときは、走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

要点

- 水温警告メッセージ“HIGH TEMP”と水温警告シンボルが画面に交互に表示されているときに、アップボタンを押した状態でロアボタンを押すと、前回表示されていた画面に戻りますが、警告灯は消灯しません。
- 水温警告メッセージ“HIGH TEMP”と水温警告シンボルが表示中に、他の警告メッセージと警告シンボルが表示されたときは、それぞれ画面に交互に表示されます。それぞれの警告メッセージと警告シンボルの表示は、アップボタンを押して表示を切り替える事ができます。

燃料ゲージ

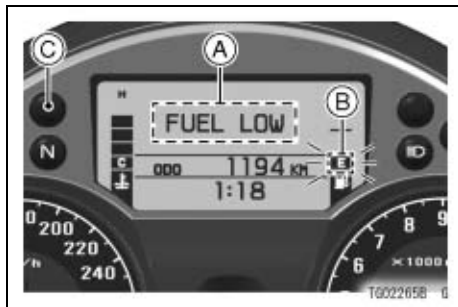
燃料タンクの燃料残量は、表示されるセグメントの数によって表示されます。燃料が満タンのときは、燃料ゲージの全6セグメントが表示されます。もし、燃料ゲージが正しく表示されないときは、ブライト取扱店にご相談ください。



A. 燃料ゲージ

38 メータの見方、使い方

燃料が減るに従ってセグメントは、“F”から順に“E”の方へ消えていき、燃料タンク内の残量を示します。残り1つのセグメントのみ表示されると燃料警告メッセージ“FUEL LOW”と燃料警告シンボルが画面に交互に表示されます。この時は、燃料が4.0 L残っていますが、燃料を早めに補給してください。



- A. 燃料警告メッセージ“FUEL LOW”
- B. 燃料ゲージ
- C. 警告灯



- A. 燃料警告シンボル
- B. 燃料ゲージ
- C. 警告灯

要点

- 燃料警告メッセージ“FUEL LOW”と燃料警告シンボルが画面に交互に表示されているときに、アップボタンを押した状態でロアボタンを押すと、前回表示されていた画面に戻りますが、警告灯は消灯しません。
- 燃料警告メッセージ“FUEL LOW”と燃料警告シンボルが表示中に、他の警告メッセー

ジと警告シンボルが表示されたときは、それぞれ画面に交互に表示されます。それぞれの警告メッセージと警告シンボルの表示は、アップボタンを押して表示を切り替える事ができます。

設定画面

マルチファンクションメータ内に表示される機能の設定を、この画面の各設定メニューで行います。

注意
走行中はこの設定画面を操作しないでください。

言語設定メニュー

“ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH、ITALIANO”

マルチファンクションメータに表示される言語は、英語、フランス語、ドイツ語またはイタリア語を表示することができます。この言語設定メニューにて表示する言語を設定してください。

- アップボタンとロアボタンを同時に2秒以上押してください。
- ロアボタンを押して、カーソルを表示したい言語に合わせます。
- アップボタンを押して、表示したい言語を確定します。

40 メータの見方、使い方

- アップボタンとロアボタンを同時に2秒以上押すと、通常画面に戻ります。



- A. 言語設定メニュー
- B. カーソル

単位設定メニュー

“TIRE PRESSURE: KPA、PSI”

マルチファンクションメータに使用される単位表示は切り替えることができます。

日本国内ではマルチファンクションメータに使用される単位表示は、KPAに合わせてください。

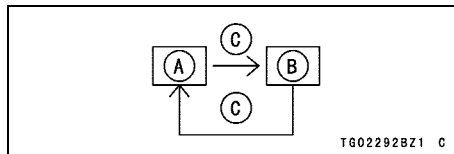


- A. タイヤ空気圧単位設定メニュー
- B. カーソル

要点

- この単位設定メニューで変更された単位表示は、タイヤ空気圧に使用される単位表示を切り替えます。
- 誤った単位を表示して走行しないでください。切り替え方法は、以下の手順に従ってください。

- 言語設定メニューにて表示する言語を設定した後、アッパボタンを押して、カーソルを“TIRE PRESSURE”に合わせてください。
- 2秒間アッパボタンを押すと、“TIRE PRES-SURE”の前回設定した単位が点滅します。
- ロアボタンを押して、表示したい単位を選択してください。
- 単位の設定は、次の順に切り替わります。



A. KPA

B. PSI

C. ロアボタンを押す

- アッパボタンを押して、表示したい単位表示を確定します。

42 メータの見方、使い方

単位設定メニュー

“MILEAGE : KM/L、L/KM、MPG USA、MPG UK”

マルチファンクションメータに使用される単位表示は切り替えることができます。

日本国内ではマルチファンクションメータに使用される単位表示は、KM/Lに合わせてください。



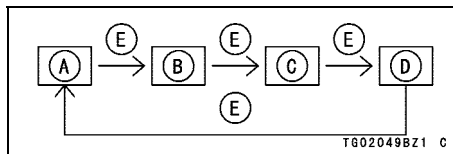
A. 燃費単位設定メニュー

B. カーソル

要点

- この単位設定メニューで変更された単位表示は、オドメータ、トリップメータ、平均燃費、瞬間燃費、航続可能距離に使用される単位表示を切り替えます。
- 誤った単位を表示して走行しないでください。切り替え方法は、以下の手順に従ってください。
- 言語設定メニューにて表示する言語を設定した後、アップボタンを押して、カーソルを“MILEAGE”に合わせてください。
- 2秒間アップボタンを押すと、“MILEAGE”の前回設定した単位が点滅します。
- ロアボタンを押して、表示したい単位を選択してください。

- 単位の設定は、次の順に切り替わります。



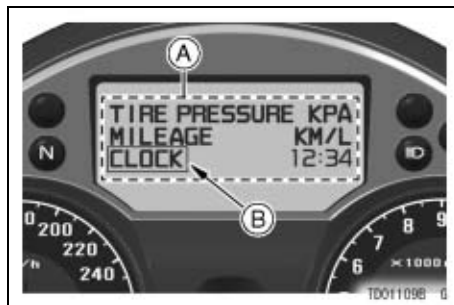
- A. KM/L
- B. L/100 KM
- C. MPG USA
- D. MPG UK
- E. ロアボタンを押す

- アップボタンを押して、表示したい単位表示を確定します。

時刻設定メニュー

“CLOCK”

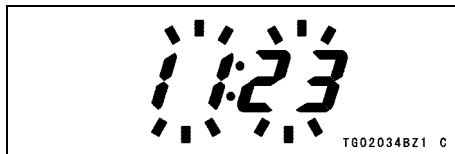
- 言語設定メニューにて表示する言語を設定した後、アップボタンを押して、カーソルを時刻設定メニュー“CLOCK”に合わせてください。



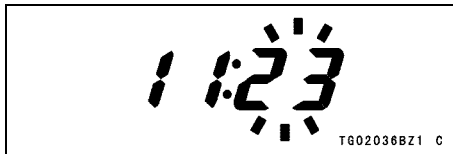
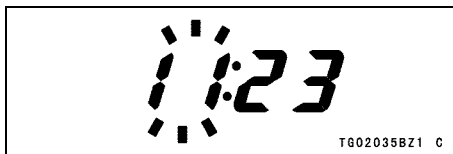
- A. 時刻設定メニュー
- B. カーソル

44 メータの見方、使い方

- アップボタンを2秒以上押して、時刻調整モードにします。時刻調整モードになると表示中の<時>と<分>の数字が点滅します。



- 次にロアボタンを1回ずつ押すと、表示中の点滅位置が<時>→<分>に順次変わります。数字を合わせたいところに点滅位置を合わせます。



- 数字合わせはアップボタンを押して行います。
- 時刻を合わせ終われば、ロアボタンを押して、<時>と<分>の数字を点滅させます。

- 最後にアップボタンを押します。これで表示の点滅はなくなり、時計の表示に戻ります。

要点

- 時計はバッテリーによって、ハンドルロックユニットがOFFの位置でも動いています。しかし、バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、表示時間を調整する必要があります。
- 表示時間を調整するときは、ボタンを1回ずつ押すと、1時間毎または1分毎に変わります。ボタンを押した状態にすると時間または分の単位が連続して変わります。

(E) アップボタン/(F) ロアボタン

アップボタン、またはロアボタンは、メータ内のさまざまな設定、および表示を行うときに使用します。

(G)/(H) ターンシグナルインジケータライト (レフト・ライト)

⚡⚡ : ターンシグナルスイッチを左(⚡)の方に入れる時と右(⚡)の方に入れるときにターンシグナルインジケータライトが点滅します。

(I) ニュートラルインジケータライト

N: トランスミッションがニュートラルのとき、ニュートラルインジケータライトが点灯します。

(J) ハイビームインジケータライト

☞ : ヘッドライトの照射を上向きにすると、ハイビームインジケータライトが点灯します。

46 メータの見方、使い方

(K) 警告灯

メータユニットにある警告灯は、フューエルインジェクションシステム(DFI)、またはKIPASSシステムに異常があった場合、警告メッセージとともに点灯または点滅します。メータのメッセージの詳細については、次の各説明を参照してください。



A. 警告灯

要点

- 警告メッセージと警告シンボルが画面に交互に表示されているときに、アッパボタンを

押した状態でロアボタンを押すと、前回表示されていた画面に戻りますが、警告灯は消灯しません。

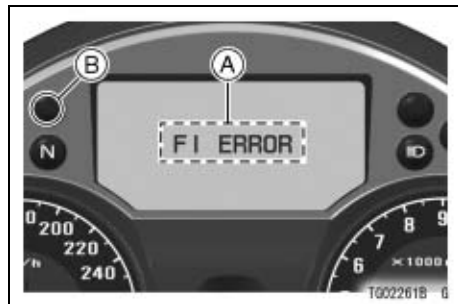
- 警告メッセージと警告シンボルが表示中に、他の警告メッセージと警告シンボルが表示されたときは、それぞれ画面に交互に表示されます。それぞれの警告メッセージと警告シンボルの表示は、アッパボタンを押して表示を切り替える事ができます。
- ハンドルロックユニットをOFFの位置にすると、警告灯が24時間点滅します。警告灯が点滅していなくても、イモビライザシステムは作動しています。
- 不適切なコードを持つキーを使用した場合、あるいはアンテナとキーが正常に通信できない場合には、警告灯が点滅します。ただし、適切なコードを持つキーを使用して、通信が正常に実行された場合には、警告灯は点滅しません。

要点

- 警告灯の点滅を解除したいときは、ハンドルロックユニットをOFFの位置にしてから20秒以内にアップボタンとロアボタンを同時に2秒以上押すと、警告灯の点滅モードを解除できます。
- もしフューエルインジェクションシステムまたはKIPASSシステムに異常がある場合は、警告灯の点滅モードを変更することはできません。ブライツ取扱店で点検をお受けください。
- バッテリーが放電またはバッテリーを取り外したときには、警告灯は点滅モードになります。
- バッテリー電圧が低く(12ボルト以下)になると、バッテリーの過度な放電を防ぐために、警告灯は自動的に点滅モードを解除します。

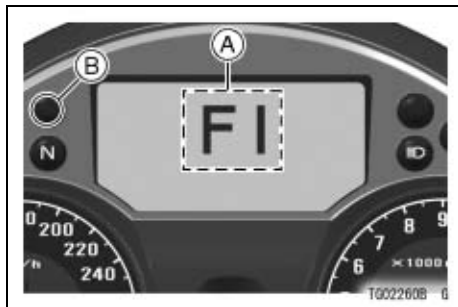
FI警告メッセージ/シンボルマーク

フューエルインジェクションシステムに異常があれば、FI警告メッセージとシンボルマークは、警告灯とともにメータに表示されます。FI警告メッセージ“FI ERROR”とシンボルマークは交互に表示されます。さらに警告灯は点灯または点滅します。もし、警告灯が点灯または点滅し、警告メッセージとシンボルマークが表示されたときは、ブライツ取扱店にご相談ください。



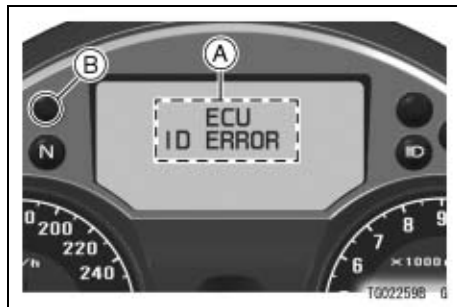
- A. “FI ERROR” メッセージ
B. 警告灯

48 メータの見方、使い方

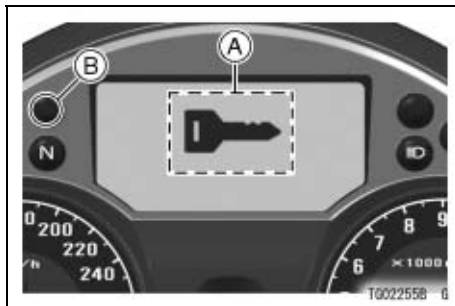


- A. シンボルマーク
- B. 警告灯

警告メッセージ“ECU ID ERROR”とシンボルマークは、警告灯とともに表示されます。これは、FI ECUが正しく通信が行えないことを示します。ブライト取扱店でFI ECUの点検をお受けください。



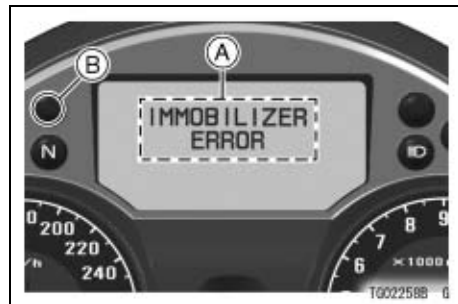
- A. “ECU ID ERROR”メッセージ
- B. 警告灯



- A. シンボルマーク
- B. 警告灯

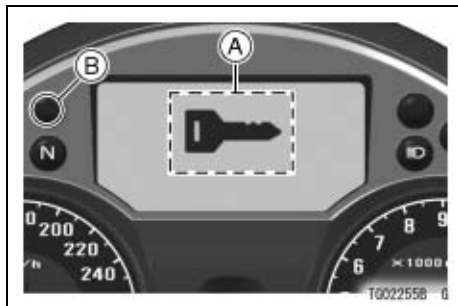
イモビライザ警告メッセージ/シンボルマーク

イモビライザシステムに異常があれば、警告メッセージとシンボルマークは、警告灯とともにメータに表示されます。イモビライザ警告メッセージ“IMMOBILIZER ERROR”とシンボルマークは交互に表示されます。さらに警告灯は点灯または点滅します。もし、警告灯が点灯または点滅し、警告メッセージとシンボルマークが表示されたときは、ブライト取扱店にご相談ください。



- A. “IMMOBILIZER ERROR” メッセージ
- B. 警告灯

50 メータの見方、使い方



A. シンボルマーク

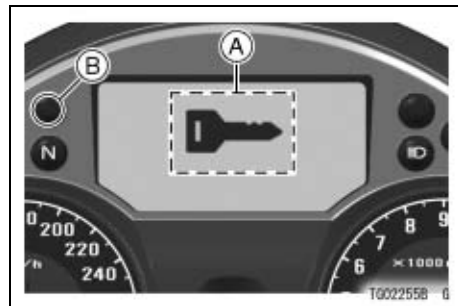
B. 警告灯

ステアリングロック警告メッセージ/シンボルマーク

ハンドルロックユニットユニットに異常があれば、警告メッセージとシンボルマークは、警告灯とともにメータに表示されます。ステアリングロック警告メッセージ“STEERING LOCK ERROR”とシンボルマークは交互に表示されます。さらに警告灯は点灯します。もし、警告灯が点灯し、警告メッセージとシンボルマークが表示されたときは、ブライト取扱店にご相談ください。



A. “STEERING LOCK ERROR” メッセージ
B. 警告灯



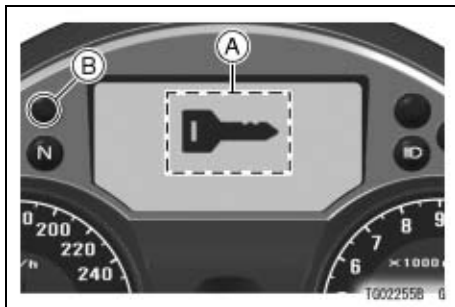
A. シンボルマーク
B. 警告灯

52 メータの見方、使い方

警告メッセージ“STEERING LOCK ID ERROR”とシンボルマークは、警告灯とともに表示されます。これは、ハンドルロックユニットユニットが正しく通信が行えないことを示します。ブライト取扱店でハンドルロックユニットユニットの点検をお受けください。



A. "STEERING LOCK ID ERROR" メッセージ
B. 警告灯



A. シンボルマーク
B. 警告灯

タイヤ空気圧警告メッセージ/シンボルマーク

タイヤ空気圧が約220kPa以下になったとき、タイヤ空気圧警告メッセージ“LOW PRES-SURE”とシンボルマークが、警告灯とともに表示されます。これは、タイヤ空気圧が低いことを示します。簡単な整備の章のタイヤの項目を参照して、はやめに空気圧を測定し、適正な空気圧にしてください。空気圧が230 kPa以上になったときは、タイヤ空気圧警告メッセージとシンボルマークは、消えます。

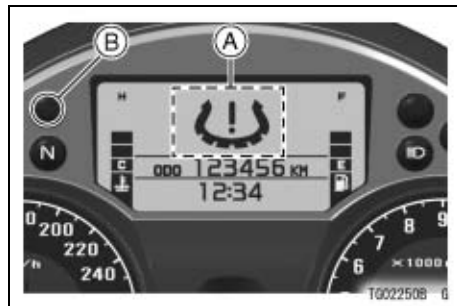
LOW PRESSURE TIRE F:前輪タイヤ空気圧低下

LOW PRESSURE TIRE R:後輪タイヤ空気圧低下



A. タイヤ空気圧警告メッセージ (前輪側)

B. 警告灯



A. シンボルマーク

B. 警告灯

要点

- タイヤ空気圧警告メッセージとシンボルマークは、タイヤ空気圧が230 kPa以上になるまで表示されます。
- タイヤを交換した時は、タイヤ空気圧が正しく表示されることを確認してください。

54 メータの見方、使い方

タイヤ空気圧センサバッテリー警告メッセージ/ シンボルマーク

タイヤ空気圧センサバッテリーの電圧が低くなったとき、タイヤ空気圧センサバッテリー警告メッセージとシンボルマークが、表示されます。タイヤ空気圧センサバッテリーの交換は、ブライト取扱店にご相談ください。

TIRE PRESSURE SENSOR F LOW BATTERY:前輪タイヤ空気圧センサバッテリー低下

TIRE PRESSURE SENSOR R LOW BATTERY:後輪タイヤ空気圧センサバッテリー低下



A. タイヤ空気圧センサバッテリー警告メッセージ(前輪側)



A. シンボルマーク

要点

- もし、タイヤ空気圧センサバッテリーが完全にあがってしまったときは、各タイヤ空気圧センサ警告メッセージおよびシンボルマークは表示されません。

携帯機警告メッセージ/シンボルマーク

携帯機を所持しないでエンジンを停止しようとしたとき、携帯機のボタン電池の電圧が低くなったとき、または携帯機が正しく認証されなかったときは、警告メッセージとシンボルマークが、表示されます。



A. 携帯機

警告灯とともに“NO TRANSPONDER”のメッセージが表示され、その後シンボルマークが10秒間メータに表示されます。これは、携帯機が車の近くになく、シンボルマークが表示されている間、エンジンを再始動することがで

56 メータの見方、使い方

きることを表します。シンボルマークが10秒間表示されている間に、エンジンを再始動し、登録された携帯機を使用してください。

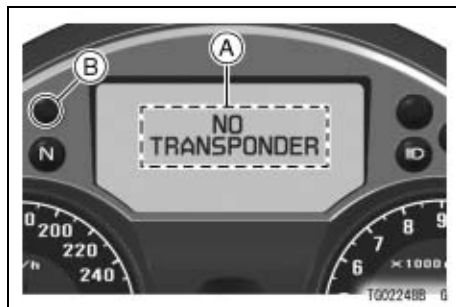
携帯機を持たずに車を走行した場合は、警告メッセージが表示されます。警告メッセージが表示されたときは、車を停止して携帯機がどこにあるか確認してください。

この警告メッセージは、携帯機を持たずに車を走行した場合に、速度が 20 km/h で一定の加速をすると表示されます。

注意

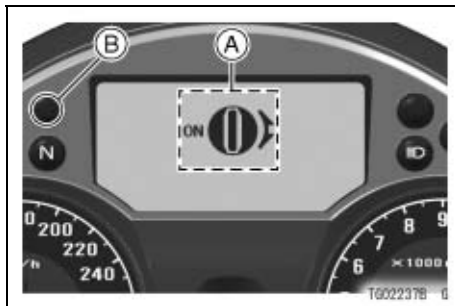
シンボルマークは10秒経過すると消えます、その後再度エンジンを始動することは出来ません。

もし10秒経過後、シンボルマークが消えて、再度エンジンを始動できなくなったときは、登録された携帯機を使用するか、ブライト取扱店にご相談ください。



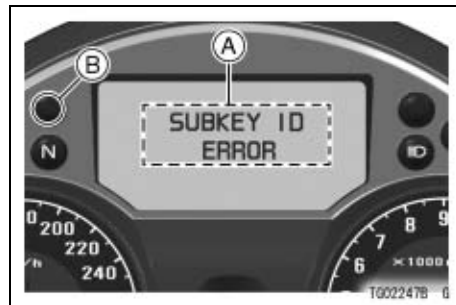
A. “NO TRANSPONDER” メッセージ

B. 警告灯



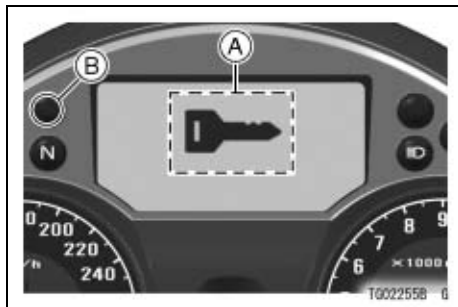
- A. シンボルマーク
- B. 警告灯

警告メッセージ“SUBKEY ID ERROR”と警告シンボルが表示され警告灯が点灯したときは、携帯機の通信が正常に実行できなかったことを表します。携帯機のボタン電池の電圧が低下しているため、携帯機をハンドルロックユニットから 2 cm 以内に近づけてください。またはスペアキーを使用してください。警告メッセージと警告シンボルの表示が消えない場合は、ブライト取扱店で点検をお受けください。



- A. “SUBKEY ID ERROR” メッセージ
- B. 警告灯

58 メータの見方、使い方

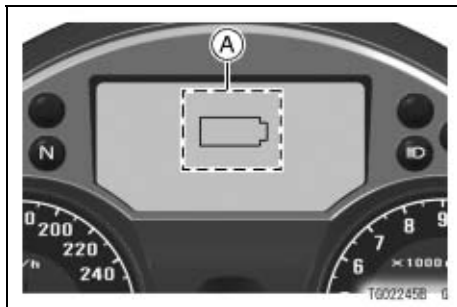


- A. シンボルマーク
- B. 警告灯

ノブキーをONの位置にしたときに“TRANSPONDER LOW BATTERY”のメッセージとシンボルマークが、メータに表示されたときは、携帯機の電池電圧が低下していることを表します。できるだけ早めに電池交換をしてください。電池交換および詳しい説明は、KIPASSシステムの章を参照してください。



- A. “TRANSPONDER LOW BATTERY”メッセージ



A. シンボルマーク

要点

- 携帯機の電池が切れた状態では、“TRANSPONDER LOW BATTERY”のメッセージはメータに表示されません。
- 携帯機のボタン電池が放電した状態で、ハンドルロックユニットから2cmの範囲内に携帯機を近づけてノブキーをONの位置に回した場合には、ノブキーをOFFの位置に回したときに“NO TRANSPONDER”および“TRANSPONDER LOW BATTERY”

のメッセージはマルチファンクションメータに表示されません。また、携帯機を持たずに車体を移動した場合でも、マルチファンクションメータに“NO TRANSPONDER”のメッセージは表示されません。

- ハンドルロックユニットから2 cmの範囲内に携帯機を近づけた時は、携帯機の認証に数秒かかります。

(L) 油圧警告灯

: ノブキーをONの位置にすると、警告灯が点灯します。エンジンが始動すると消灯します。走行中に点灯するのは潤滑系統の異常です。

もし点灯した時はエンジンを止めて、エンジンオイル量を点検してください。オイル量が正常でも点灯する場合はブライトレ車取扱店で点検をお受けください。

(M) ABSインジケータライト

: ハンドルロックユニットをONの位置にすると、ABS (アンチロックブレーキシステム) インジケータライトは点灯します。車が走り始

60 メータの見方、使い方

めると消灯します。ABSが正常であれば、インジケータライトは消灯したままです。もし、ABSに異常が起きた場合、インジケータライトは点灯したままの状態になります。インジケータライトが点灯したときは、ブライトレ取扱店にて点検をお受けください。

要点

- ABSインジケータライトは、車の運転状況によって点灯する場合があります。(例えば、前輪または後輪が空転したとき。)この場合ノブキーを一度、OFFの位置にし、再度ONの位置にしてください。この操作をすることにより、ABSインジケータライトは、消

灯しますが、車速が5 km/h以上で1分間以上走行した後でも、ABSインジケータライトが点灯したままになる場合は、ブライトレ取扱店でABSの点検をお受けください。

- ABSインジケータライトが点灯しているときには、ABSは作動しません。
- ABSの作動不良あるいは故障の場合でも、通常のブレーキシステムは正常に作動します。
- ABSについての詳しい説明は、アンチロックブレーキシステム(ABS)の項目を参照してください。

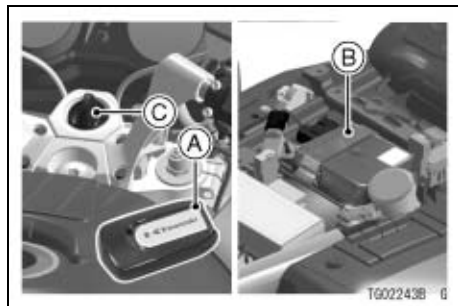
KIPASSシステムについて

KIPASS (Kawasaki's Intelligent Proximity Activation Start System) システム

この車には、KIPASS (キーパス) システムが装備されており、携帯機を携帯することにより、ノブキーを取り出すことなくエンジンを始動したり、ハンドルロックを解除したりすることができます。このシステムの構成部品は、携帯機、KIPASS ECU、ノブキーがあります。

要点

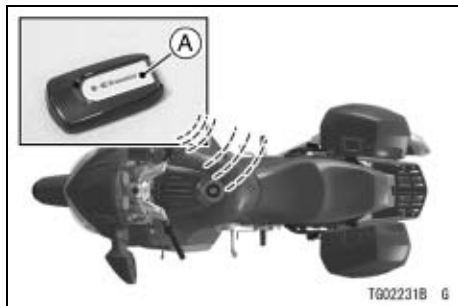
- バッテリーがあがっている、または取り外されている時は、ハンドルロックを解除または施錠することは出来ません。



- A. FOBキー (携帯機)
- B. KIPASS ECU
- C. ノブキー

エンジンの始動

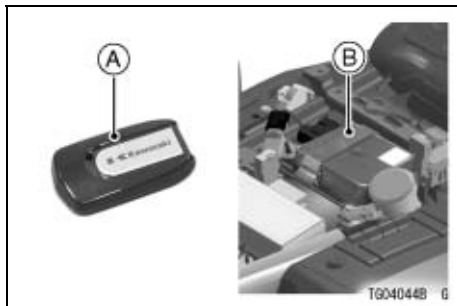
このKIPASSシステムは、電波によって車と携帯機との間でユーザIDの相互認証を行い、ユーザIDが正しく認証されると、エンジンを始動することができます。



A. FOBキー(携帯機)

⚠ 警告

KIPASS は電波を発信しますので植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器の作動に影響するおそれがあります。FOB キー(携帯機)あるいはKIPASS ECUのアンテナ部とこれらの医療機器の植込み部位との距離は、必ず22 cm以上離しておいてください。植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器を使用されている方は必ず医師または医療機関と相談してください。



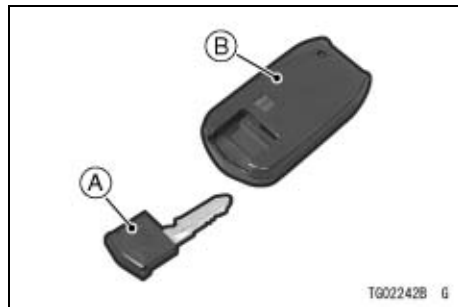
A. FOBキー(携帯機)
B. KIPASS ECU(シート下)

携帯機

この車についている携帯機には、メカニカルキーがあります。このノブキーは携帯機の中に格納されており、ノブキーの紛失等の非常時に使用してください。この携帯機は、最大6個まで一度にKIPASSシステムに登録することができます。携帯機を追加登録するときは、ブライト取扱店にご相談ください。もし全ての携帯機を紛失された場合は、新しく携帯

機を登録することができなくなりますので、ご注意ください。

KIPASSシステムに1度に6個の登録を行うと新規では追加登録できません。



A. メカニカルキー
B. 携帯機

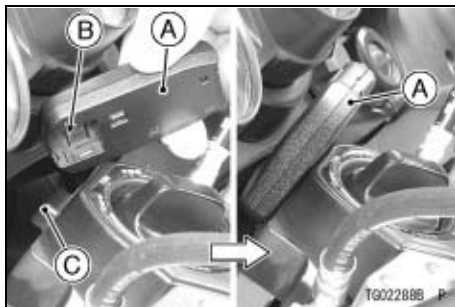
携帯機の使用上の留意点

- 携帯機を金属面の上に置いたり、キーリングなどで、他の金属をつなげたりしないでください。通信不良の原因となります。

64 KIPASSシステムについて

- 携帯機が電波送受信の範囲内にあるときは、携帯機を携帯していない人でもエンジンを始動することができますので、注意してください。
- お店のガラス越しや家の塀越しなど隔てた場所でも、車を駐車した場所が電波送受信範囲内にあると、携帯機を携帯していない人でもエンジンを始動することができますので、注意してください。
- 携帯機は必ず運転者が携帯してください。そして、エンジンを停止する前に携帯機を所持していることを確認してください。
- 携帯機は、電波を送受信しますので、携帯機のボタン電池は消耗していきます。電池の寿命は、使用状況により変わりますが、約1年です。もし強い電波を発生する電子機器の近くに置かれているときは、電池を早く消耗することがあります。携帯機は、ノブキーのON-OFF時、ロック解除時、および、車の発進時に通信を行います。

- 携帯機のボタン電池が切れると、ノブキーの操作ができなくなります。携帯機からメカニカルキーを取り外し、携帯機のくぼみ部分をハンドルロックユニットの突起部に取り付けます。約2秒後にノブキーを押し込み操作できるようになります。



- A. 携帯機
- B. くぼみ
- C. 突起部

- 登録済みの携帯機を複数所持しているときは、いずれかの携帯機にて正しく認証を

行うことができれば、エンジンを始動することが出来ます。もし通信不良が起こった時は、どちらかの携帯機の位置を移動してください。

- 携帯機は電波送受信範囲内にあっても、正しく電波を送受信しない場合があります。この時は、携帯機の位置を移動して使用してください。

注意

携帯機を高温になる場所、または湿気の多い場所に放置しないでください。
携帯機を削ったり、無理に形状を変えたり、超音波洗浄器で洗浄したりしないでください。
磁気を携帯機に近づけないでください。
携帯機を他の電気製品または、医療機器に近づけないでください。
携帯機を水につけないでください。
携帯機をボタン電池交換以外の目的で分解しないでください。
携帯機を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

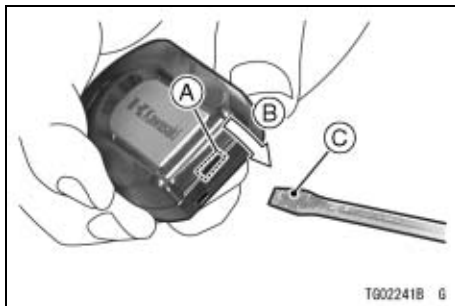
注意

- 携帯機をガソリン、またはシンナー等で磨かないでください。
- 携帯機を紛失された時は、ただちにブライト取扱店にお申し付けください。
- 全ての携帯機を紛失された時は、ECUの交換と新しい携帯機の登録が必要となります。

電池交換

携帯機にはボタン電池を使用しております。もし電池交換を行う場合は、ブライト取扱店に相談するか、または以下の手順で行ってください。

- 携帯機の上側にある溝へマイナスドライバを差し込み、マイナスドライバを軽くひねって携帯機を分解します。

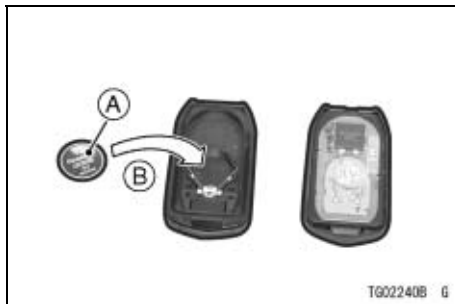


- A. 溝
- B. ひねる
- C. マイナスドライバ

要点

- 携帯機を分解するときは、マイナスドライバの先にウエス等を当てて、携帯機を傷つけないようにしてください。

- 古い電池と新しい電池を交換し、確実に電池を取り付けてください。



A. ボタン電池

B. (+)面を下側に向けて取り付ける

使用電池(ボタン電池)

CR2025

警告

間違った電池と交換をした場合には、破裂する危険性があります。必ず同じタイプまたは同等品の電池と交換してください。

注意

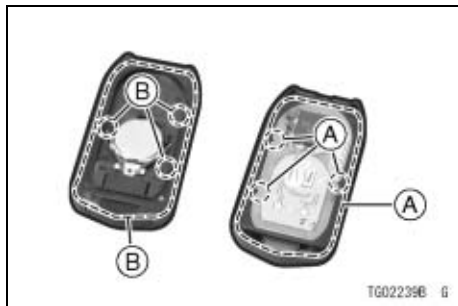
電池を直射日光に当てたり、火気に近付けないでください。

要点

- 電池を交換するときは、(+)面を下側に向けて取り付けます。

68 KIPASSシステムについて

- 携帯機を組み付けるときは、携帯機の上側カバーと下側カバーの溝を合わせて、しっかりと差し込みます。



- A. 溝
B. 突起部

⚠ 警告

ボタン電池や取り外した部品は、子供の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池や取り外した部品は大変小さいので、子供が誤って飲み込むと、重大な傷害を受ける可能性があります

注意

電池交換するときは、携帯機を傷つけないようにしてください。

ボタン電池の(+)面は、必ず正しい方向に取り付けてください。

携帯機内部の電子部品、または電子回路に触れないようにしてください。

埃の多い場所での電池交換は行わないでください。

携帯機内部に水、ごみ、埃等が入らないようにしてください。

ボタン電池を交換するときは、無理に分解しないでください。

ボタン電池を交換するときは、電池および携帯機のターミナル部分を素手で触らないようにしてください。

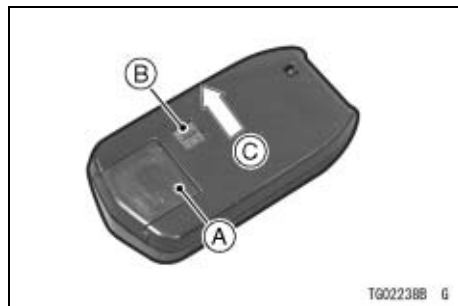
メカニカルキー

非常用イグニッションキーは、ノブキーを紛失等した時に、代替キーとして使用してください。メカニカルキーを取り出すときは、携帯機の裏側にあるノブを矢印の方向へ押し付けた

まま引いてください。このメカニカルキーは、使用しないときは、携帯機へ差し込んでおいてください。

要点

- メカニカルキーは、携帯機と一緒に使用してください。メカニカルキーだけでは、ハンドルロックユニットを操作することはできません。



A. メカニカルキー

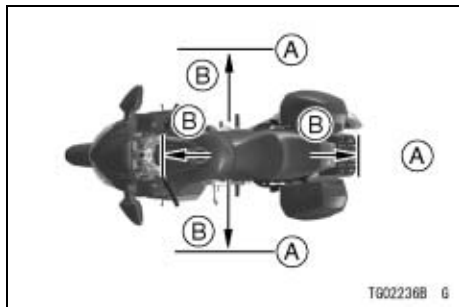
B. ノブ

C. 押す

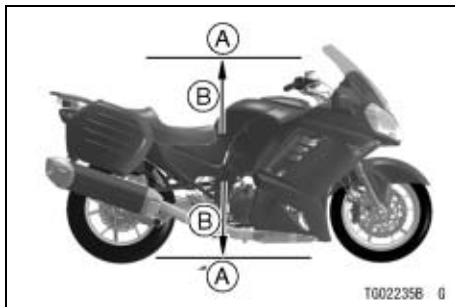
70 KIPASSシステムについて

携帯機の電波送受信の可能範囲

携帯機とアンテナとの電波送受信の可能範囲は、約 80cmです。このKIPASSシステムは微弱電波を送受信しているため、作動範囲は変わることがあります。また、携帯機の位置によっては、稼動範囲内であっても通信できない場合があります。



A. 範囲
B. 約80 cm



A. 範囲
B. 約80 cm

KIPASSシステムが正しく作動しない時

もし、KIPASSシステムが、正しく作動しないときは、以下の項目を点検してください。以下のこと以外のことで、KIPASSが作動しないときは、ブライツ取扱店にご相談ください。

- 放送局、発電所、携帯電話、パソコンなどの妨害ノイズを発生し通信障害を引き起こす可能性がある機器の近く、または、携帯機が金属製のものに覆われていたり、接していたりしていないか？このような状況での

使用は、通信不良が起こる可能性があります。

- ボタン電池が正しく取り付けられていない、または消耗している。(電池交換の項目を参照してください。)

KIPASSシステムのご使用にあたって

この車のKIPASSシステムは、アンテナとFOBキー(携帯機)の間で、電波を送受信しております。

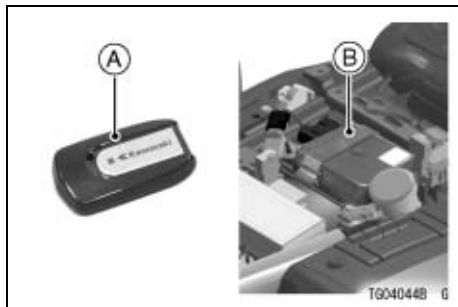
心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器などの医療機器を使用されている運転者または同乗者が使用するときは、必ず使用する前にアンテナの位置を確認し、次の内容を必ず読んで理解してください。



警告

KIPASS は電波を発信しますので植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器の作動に影響するおそれがあります。FOB キー(携帯機)あるいはKIPASS ECUのアンテナ部とこれらの医療機器の植込み部位との距離は、必ず22 cm以上離しておいてください。植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器を使用されている方は必ず医師または医療機関と相談してください。

72 KIPASSシステムについて



A. FOBキー(携帯機)

B. KIPASS ECU(シート下)

スイッチの使い方

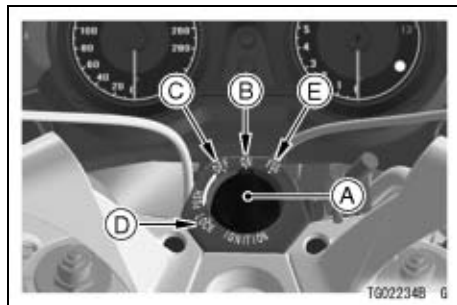
ハンドルロックユニット

この車には、KIPASSシステムが装備されており、携帯機を携帯することにより、ノブキーを取り出すことなくエンジンを始動したり、ハンドルロックを解除したりすることができます。

ハンドルロックユニットは、4段切り替えです。このシステムの構成部品は、携帯機、KIPASS ECU、ノブキーがあります。ノブキーを抜くときは、FSSの位置にしてください。

要点

- ハンドルロックユニットを無理矢理に操作すると、故障する場合があります。予期しないメッセージが表示された場合は、ノブキーをOFFの位置に回してから、もう一度ゆっくりと ON、LOCK、FSS の各位置に回してください。



- A. ノブキー
- B. ON (昼夜間走行)
- C. OFF (停止)
- D. LOCK (ロック)
- E. FSS (ノブキー取り外し)

74 スイッチの使い方

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	エンジンは始動し走行できる。すべての電装部品が使用できる。	抜けない
OFF	エンジンが停止する。エンジンは始動できない。すべての電気回路を遮断する。	抜けない
LOCK	エンジンは始動できない。すべての電気回路を遮断する。ステアリングがロックされる。	抜けない
FSS	エンジンは始動できない。すべての電気回路を遮断する。ステアリングはロックされない。	抜ける



警告

走行中はノブキーを操作しないでください。
走行中にスイッチをOFFやLOCK、FSSの位置にすると電気系統の作動が停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
ノブキーは必ず停車中に操作してください。

注意

ハンドルロックユニットがONの位置のまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間(1時間以上)放置すると、バッテリーあがりの原因となります。
車から離れるときは必ずステアリングロックをかけてください。

注意
盗難防止またはいたずら防止のため、ノブキーをFSSの位置にした状態で、車からはなれないでください。 車を駐車するときは、ノブキーはLOCKの位置にしてください。 ノブキーは燃料タンクキャップを開けるとき、サドルバッグを開けるとき、またはシートの脱着以外には、FSSの位置にしないことをおすすめします。 ノブキーを押しても、認証が開始されないときは、しばらくしてから(約10秒)、再度ノブキーを押してください。

イセンスプレートライトが点灯します。ヘッドライトはエンジンが始動して、スタータボタンを放すとヘッドライトが点灯します。

ノブキーを押したとき、ノブキーのシンボルマークがメータに表示されます。表示されている間にノブキーをON、OFF、LOCK、FSSの位置に回すことができます。ノブキーをONの位置に回したとき、ターニングナルインジケータライトは、2回点滅します。ノブキーのシンボルマークは5秒間メータに表示されます。ノブキーのシンボルマークの表示は、携帯機が正しく認証されていることを表します。

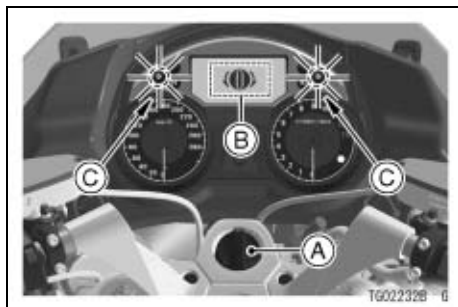
要点

- 始動時ノブキーをONの位置に回したとき、メータライト、テールライト、シティライト、ラ

76 スイッチの使い方

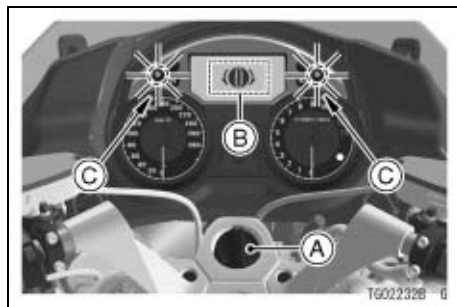
要点

- ノブキーをOFFかFSSの位置にするとキーノブシンボルが5秒間、表示されます。シンボルが表示されている間、ノブキーをON、OFFまたはLOCKの位置にすることができます。



- A. ノブキー
- B. ノブキーシンボルマーク
- C. ターンシグナルインジケータライト2回点滅

ノブキーをOFFまたはFSSの位置に回したとき、ターンシグナルインジケータライトが1回点滅します。そして、ノブキーのシンボルマークが、5秒間表示されたあと、ノブキーはロックされます。車から離れるときは、ノブキーが、必ずロックされていることを確認してください。



- A. ノブキー
- B. ノブキーシンボルマーク
- C. ターンシグナルインジケータライト1回点滅

警告灯とともに“NO TRANSPONDER”のメッセージが表示され、その後シンボルマークが10秒間メータに表示されます。これは、携帯

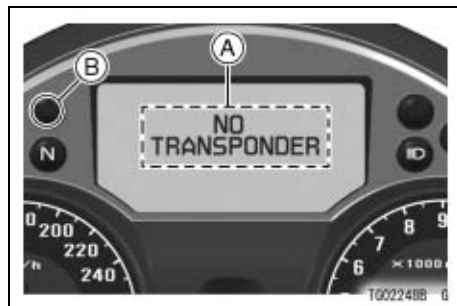
機が車の近くになく、シンボルマークが表示されている間、エンジンを再始動することができるとをします。シンボルマークが10秒間表示されている間に、エンジンを再始動し、登録された携帯機を使用してください。

注意

シンボルマークは10秒経過すると消えます、その後再度エンジンを始動することは出来ません。

もし10秒経過後、シンボルマークが消えて、再度エンジンを始動できなくなったときは、登録された携帯機を使用するか、ブライト取扱店にご相談ください。

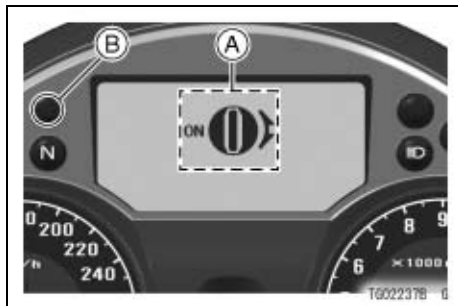
盗難防止のためノブキーをONの位置にした状態で、車から離れないでください。



A. “NO TRANSPONDER” メッセージ

B. 警告灯

78 スイッチの使い方



A. シンボルマーク

B. 警告灯

要点

- もしKIPASSシステムが故障した時は、ステアリングはロックされません。ブライト取扱店にご相談ください。

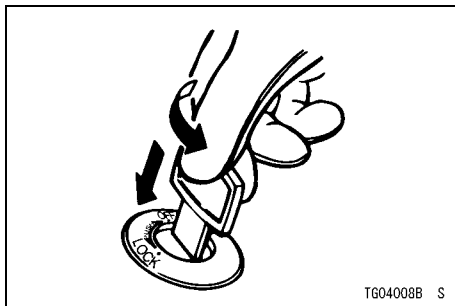
ステアリングロック

車から離れるときは、必ずステアリングロックをかけてください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

1. ハンドルを左にきります。
2. LOCKの位置にするときは、OFFの位置でノブキーを押し込み、そのままLOCKの位置まで回します。



TG04008B S

要点

- ノブキーを押し込むとノブキーシンボルが5秒間、表示されます。
- 3. ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。

警告

交通の邪魔にならない、安全な場所に駐車しましょう。

エンジン停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方がエキゾーストパイプ、マフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。



警告

走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であるか確認してください。

取り外し方

1. ノブキーを押し込みます。
2. ノブキーをOFFの位置まで回します。

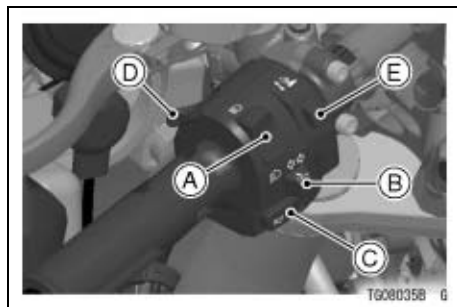
80 スイッチの使い方

ディマスイッチ

ヘッドライトの照射の上下切り替えはディマスイッチで行います。ヘッドライトの照射をハイビーム(上向き)にすると、ハイビームインジケータライトが点灯します。

☞ …上向き

☞ …下向き



- A. ディマスイッチ
- B. ターンシグナルスイッチ
- C. ホーンボタン
- D. パッシングボタン
- E. ウィンドシールドアジャスティングボタン

要点

- 通常は、ヘッドライトをロービーム(☞ : 下向き)にして走行してください。

ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。

スイッチを左()または右()の方に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータライトが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

 ……左折

 ……右折



警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを押して解除してください。つけたままにしておくと他の方の迷惑となります。

注意

正規のワット数以外の電球を使用するとターンシグナルライトは正常に作動しません。必ず正規のワット数のものを使用してください。

82 スイッチの使い方

ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正しく作動しない時は、ブライト取扱店にご相談ください。

要点

- 必要なとき以外は使用しないでください。

パッシングボタン

ボタンを押すとヘッドライトの上向きが点灯します。先行車を追い越すとき等他車に対して合図をするときに使用します。

要点

- パッシングボタンは人差し指で操作してください。
- デイマスイッチが  (上向き) の位置の時は使用出来ません。

ウインドシールドアジャスティングボタン

ウインドシールドアジャスティングボタンでウインドシールドの高さを調整できます。

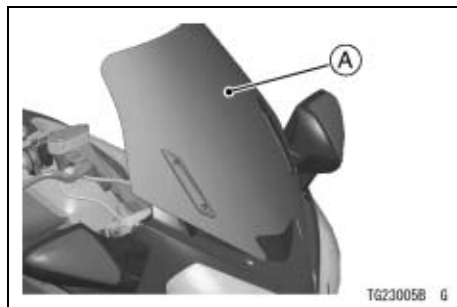
ウインドシールドを上下に動かすには、アジャスティングボタンを押した状態にします。

要点

- ウインドシールド上昇.....()
- ウインドシールド下降.....()

注意

ウインドシールドが作動している間は、体の一部や衣服等が挟み込まれたり引っ掛かったりする危険がありますので、ウインドシールドの操作は十分に注意してください。



A. ウインドシールド

84 スイッチの使い方

エンジンストップスイッチ

エンジンを始動するときは、ハンドルロックユニットを**ON**の位置にすると共にエンジンストップスイッチを  の位置にします。  の位置ではエンジンは始動しません。

エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたとき等の非常時にエンジンを停止させるために使用します。

注意

エンジンストップスイッチでエンジン停止後、すぐにハンドルロックユニットをOFFの位置にしてください。ONのままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。走行中にエンジンストップスイッチを  →  →  にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。

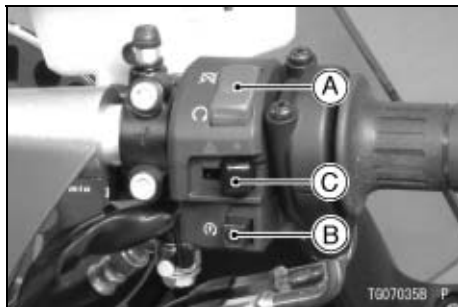
スタータボタン

ハンドルロックユニットを**ON**、エンジンストップスイッチを  の位置にしてスタータボタンを押すと、スタータが作動してエンジンが始動します。

エンジン始動時は**ギヤをニュートラルにし、クラッチレバーを握って**からスタータボタンを押します。

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。



- A. エンジンストップスイッチ
- B. スタータボタン
- C. ハザードスイッチ

ハザードスイッチ

ハンドルロックユニットをONの位置にして、ハザードスイッチを左の方に入れると、すべてのターンシグナルライトが点滅します。

注意

長時間ハザードスイッチを使用しますと、バッテリーあがりの原因になりますので30分以上は使用しないでください。

各部の取り扱い方

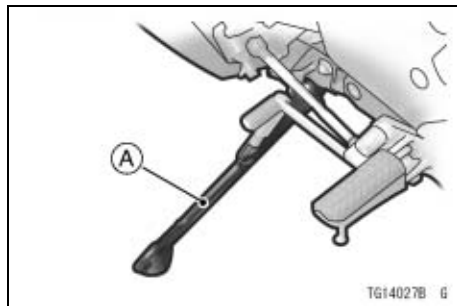
スタンド

この車にはサイドスタンドとセンタスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが停止するようになっています。

要点

- サイドスタンドを使用する時には、ハンドルを必ず左にきってください。
- 車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。

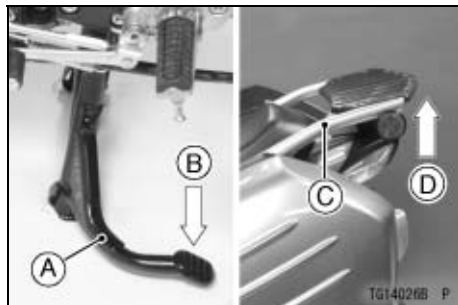


A. サイドスタンド

センタスタンドを使用する場合、スタンドの上にとしっかりと右足を置き、グリップを持って、右足に全体重をかけると同時に車を矢印の方向に持ち上げます。

注意

シートを持って車を持ち上げるとシートに損傷を与えますので、必ずグリップを持って車を持ち上げるようにしてください。



- A. センタスタンド
- B. 踏み降ろす
- C. グリップ
- D. 持ち上げる

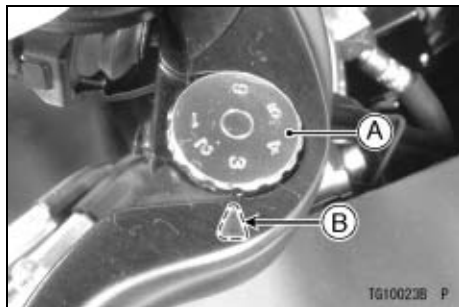
ブレーキ/クラッチレバーアジャスタ

ブレーキレバーとクラッチレバーのアジャスタを使って、レバーとグリップの距離をお好みの位置に調整できます。ブレーキレバーは6段階、クラッチレバーは5段階です。レバーとグリップの距離は1の位置が最大、ブレーキレバーは6、クラッチレバーは5の位置が最小です。

調整方法:

1. レバーを前方に押します。
2. アジャスタを回して、アジャスタの番号とレバーホルダの三角マークを合わせます。
3. レバーを放します。

88 各部の取り扱い方



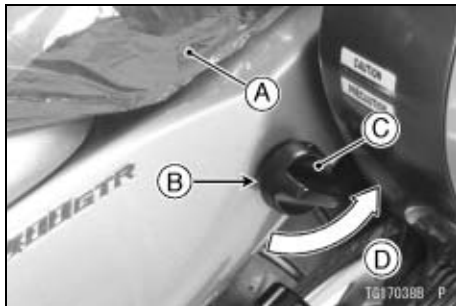
A. アジャスタ

B. マーク

シート

シートの取り外し

シートの取り外し方は、シートロックにノブキーを差し込み、ノブキーを反時計回りに回します。



A. シート

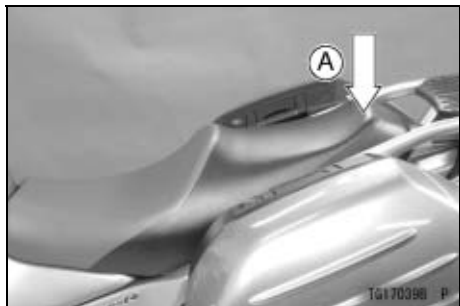
B. シートロック

C. ノブキー

D. ノブキーを回す(反時計回り)

要点

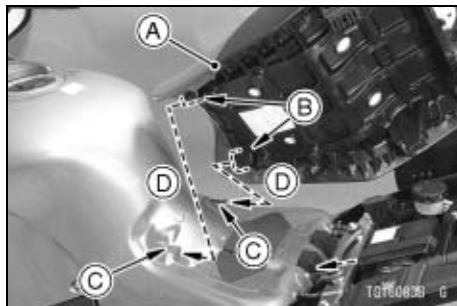
- シートが取り外しにくい時は、シートロックにノブキーを深く差し込み、シートの後側を強く押さえながらノブキーを反時計回りに回してください。



A. 強く押す

シートの取り付け

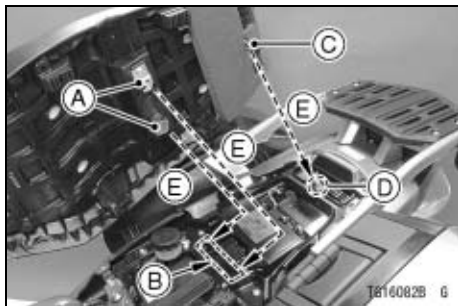
- 燃料タンクについている左右のブラケットにシート前方にある穴を差し込みます。



- A. シート
- B. 穴
- C. ブラケット
- D. 挿入する

90 各部の取り扱い方

- シート中央にあるフックをホルダに差し込み、シート後方にある突起部をフレームの穴に差し込みます。



- A. フック
- B. ホルダ
- C. 突起部
- D. 穴
- E. 差し込む

- シートの前側と後側を軽く持ち上げて、シートが確実にロックされているかを確認します。

- シートの後側を上から押してロックします。

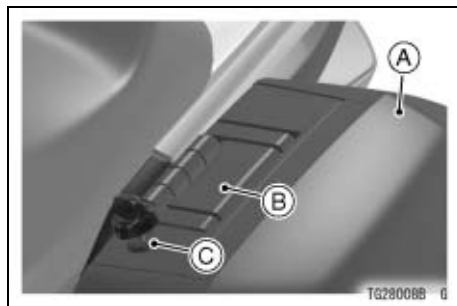
サドルバッグ

手荷物を運ぶためのサドルバッグがリヤホイールの両側に付いています。

サドルバッグの蓋の開け方

- サドルバッグのロックにノブキーを差し込みます。
- ノブキーを、ロックマークからレバーの方向に回します。

- レバーを上引き上げ蓋を開けます。



- A. サドルバッグ
B. レバー
C. ロック

サドルバッグの蓋の閉め方

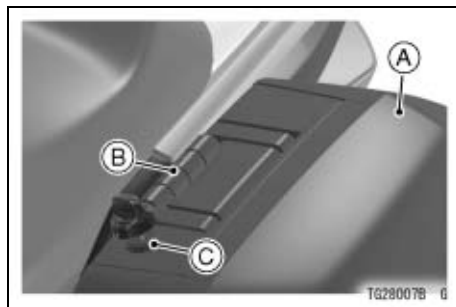
- レバーを一杯に引き上げたまま、サドルバッグの蓋を確実に閉めます。
- 元の位置にレバーを押し戻します。
- ノブキーを、ロックマークの方向に回して、ノブキーを引き抜きます。

92 各部の取り扱い方

- ロック後、レバーを引いてサドルバッグの蓋が確実にロックしているか確認します。

サドルバッグの取り外し

- サドルバッグのロックにノブキーを差し込みます。
- ノブキーを、ロックマークからレバーの方向に回します。
- ハンドルを上に取り上げます。
- サドルバッグを引き上げ取り外します。

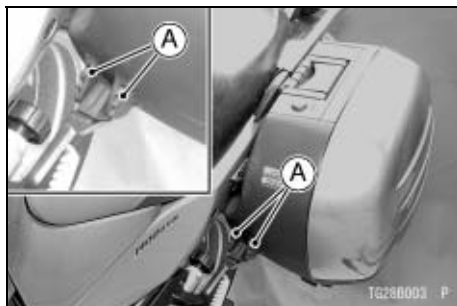


- A. サドルバッグ
- B. ハンドル
- C. ロック

サドルバッグの取り付け

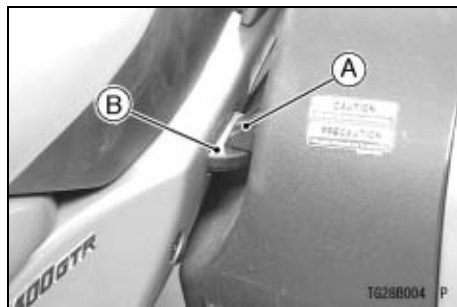
サドルバッグには左側用、右側用の区別があります。サドルバッグを正しい側に取り付けるように注意してください。間違った側に取り付けると、ロック機構が破損したり、走行中にバッグが脱落したりすることがあります。

ホルダがサドルバッグの前下部分にあることを確かめてください。



A. ホルダ

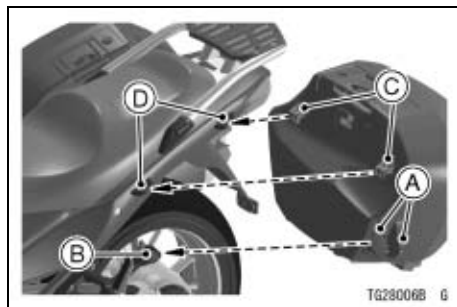
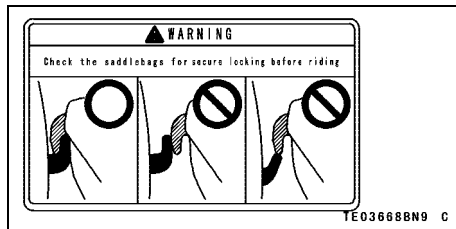
- ハンドルを引き上げた状態にします。
- サドルバッグの前下側にあるホルダと、同乗者用フットペグの後方にある突起部を合わせた状態で、サドルバッグの上部にあるフックを、シート下にあるホルダに挿入します。



A. フック
B. ホルダ

94 各部の取り扱い方

- 元の位置にハンドルを押し戻します。
- ノブキーを反時計方向に回します。
- ロック後、ハンドルを引いてサドルバッグが確実にロックしているか確認します。



- A. ホルダ
- B. 突起部
- C. フック
- D. ホルダ

**警告**

走行中にサドルバッグが脱落すると、通行の妨げになり、思わぬ事故の原因となるだけでなく、走行安定性に悪影響を与え、事故につながるおそれがあります。走行中はサドルバッグの蓋を確実に閉めてください。サドルバッグ内の荷物が後輪に当り、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

各サドルバッグの積載荷重は10kgを越えないようにしてください。
積載時は、左右のサドルバッグの荷重がほぼ等しくなるようにしてください。
サドルバッグの上に座らないでください。
蓋の上に物を置いたり、座らないでください。

要点

- この車の最大積載荷重は、運転者、同乗者、荷物、アクセサリ部品を含めて200 kg までです。

96 各部の取り扱い方

小物入れ

小物入れが、燃料タンクの上にあります。

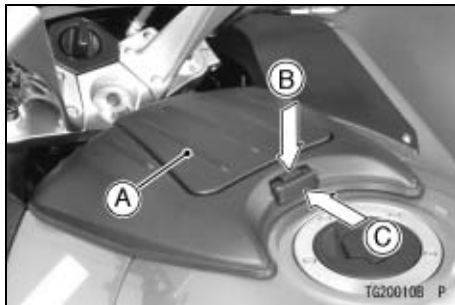
小物入れは、軽い荷物などを入れるために使用します。

要点

- 車から離れるときは、小物入れに貴重品を入れないでください。

小物入れの蓋の開け方

- ボタンを押さながらレバーを押して、小物入れの蓋のロックをはずします。
- 自動で蓋が開きます。



- A. 小物入れの蓋
- B. ボタンを押さえる
- C. レバーを内に押し込む

小物入れの蓋の閉め方

- 小物入れの蓋をカチッと音がするまで押し込みます。

- ロック後、蓋を引いて小物入れが確実にロックしているか確認します。



警告

小物入れが確実に閉まっているか確認してください。走行中に荷物が飛び出すと、車の運転に悪影響を与え、事故につながるおそれがあります。

リヤキャリア

キャリアが車両後方にあります。



A. リヤキャリア

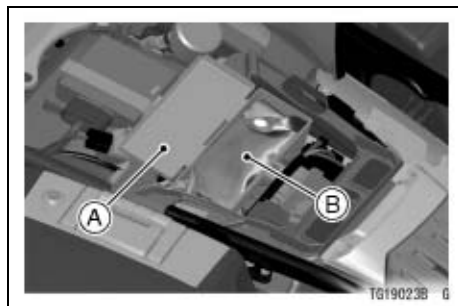
注意

リヤキャリアの積載荷重は10 kgを越えないようにしてください。

98 各部の取り扱い方

ツールキット

ツールキットはシートの下にあります。



A. ツールキット入れ

B. ツールキット

エアインテーク

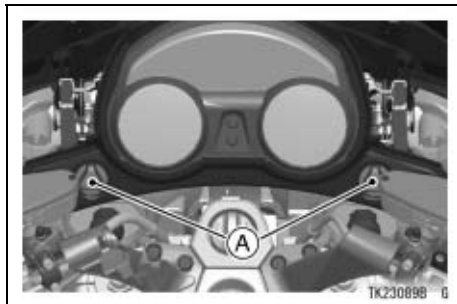
この車の前方には、燃料システムに空気を取り入れるためのエアインテーク(空気取り入れ口)があります。このエアインテークを塞いでしまうと、空気取り入れ量が少なくなり、車の性能を低下させたり、排出ガスを増やしたりする原因となります。



A. エアインテーク

ヘッドライト調整用アジャスタノブ

メータの近くにあるアジャスタノブを回すことにより、ヘッドライトの光軸を垂直方向に調整することができます。もしヘッドライトの光軸を調整したいときは、ブライト取扱店で調整を行ってください。

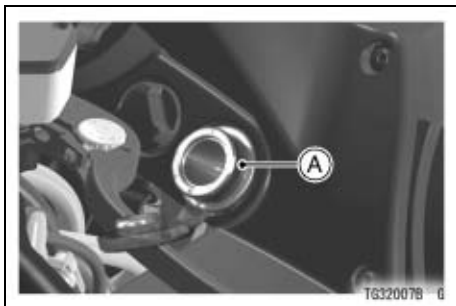


A. 垂直方向アジャスタ(アジャスタノブ)

アクセサリソケット／コネクタ

この車には、アクセサリソケットとコネクタがあります。

このアクセサリソケットは12V10A用です。



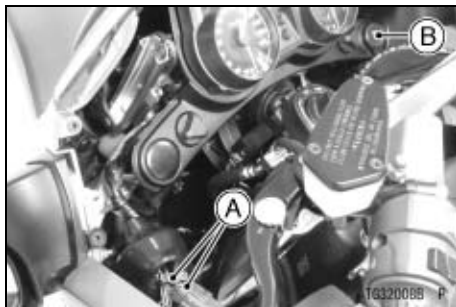
A. アクセサリソケット

100 各部の取り扱い方

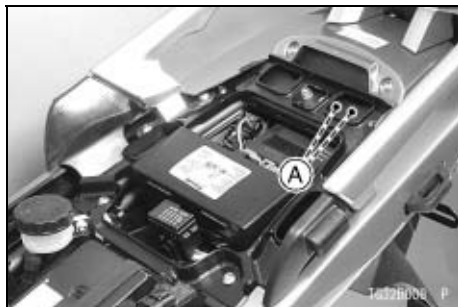
アクセサリコネクタ	リード線色表示	電極
ラッチ下	黒	+
	黒／黄	-
フロントインナカバー下	黒	+
	黒／黄	-

注意

防水型のアクセサリ類が取り付けられていない場合には、雨天時の走行や洗車はしないでください。アクセサリを使用しないときには、必ずソケットにキャップを取り付けてください。



- A. コネクタ (フロントインナカバー下)
- B. アクセサリソケットキャップ



A. コネクタ (ラッチ下)

要点

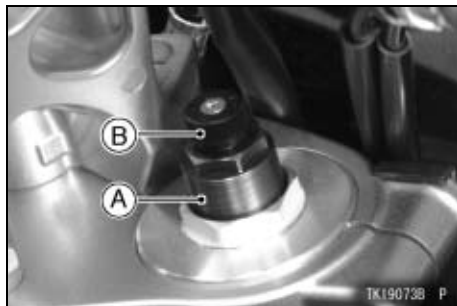
- リヤのコネクタはヒューズボックス奥の黒いゴムカバー内に有るのでシールケース、ヒューズボックスを取り外して黒いゴムカバーを引っ張り出す必要が有ります。
- アクセサリを取り付ける場合はブライト取扱店にご相談ください。

サスペンションセッティング

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

フロントフォークのセッティング

フロントフォークのセッティングには、スプリングの初期荷重の調整、および伸側減衰力の調整があります。



A. スプリング初期荷重アジャスタ
B. 伸側減衰力アジャスタ

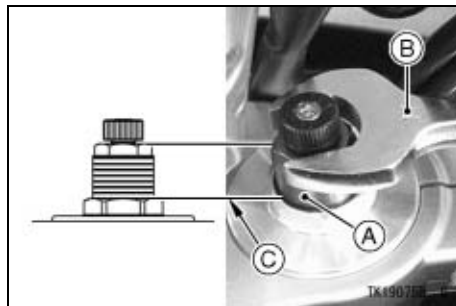


警告

スプリングの初期荷重および伸側減衰力の各アジャスタは左右同じ位置にしてください。もし左右で異なる場合は、操縦安定性に悪影響を及ぼすおそれがあります。

スプリングの初期荷重の調整

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重調整を変えることができます。
- 標準はアジャスタ最上部からナットまでの14 mmです。アジャスタを締め込んでいけば、スプリングは強くなります。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

B. スパナ

C. 調整範囲

1名標準値	14 mm
調整範囲	4 mm(強い) ~ 19 mm(弱い)

注意
調整範囲を越えてアジャスタを無理に回さないでください。

伸側減衰力の調整

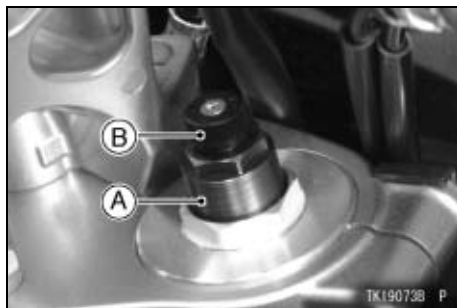
- スプリング初期荷重アジャスタの上にある伸側減衰力アジャスタを回すことにより、フォークが伸びるときのオイル抵抗(減衰力)の調整ができます。

< 堅くする場合 >

アジャスタを時計方向に回します。

< 柔らかくする場合 >

アジャスタを反時計方向に回します。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

B. 伸側減衰力アジャスタ

104 各部の取り扱い方

1名標準値	5段目(時計回りいっぱいに戻した位置から反時計回り)
-------	----------------------------

注意

調整範囲を越えてアジャスタを無理に回さないでください。

リヤショックアブソーバのセッティング

リヤショックアブソーバのセッティングには、スプリングの初期荷重の調整、および伸側減衰力の調整があります。

スプリングの初期荷重の調整

スプリング初期荷重の調整は、アジャスタを回すことにより調整ができます。

＜堅くする場合＞

アジャスタを時計方向に回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計方向に回します。



A. アジャスタ

1名標準値	12段目(反時計回りいっぱいに戻した位置から時計回り)
-------	-----------------------------

注意

調整範囲を越えてアジャスタを無理に回さないでください。

伸側減衰力の調整

リヤショックアブソーバ下部に伸側減衰力調整のアジャスタがあります。

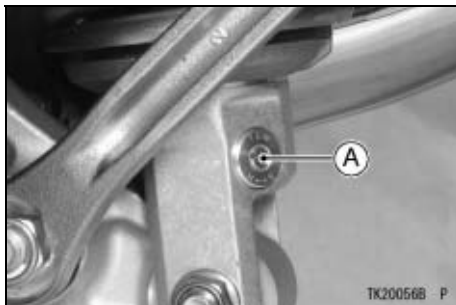
- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが伸びる時のオイル抵抗(減衰力)の調整ができます。

< 堅くする場合 >

アジャスタを時計方向に回します。

< 柔らかくする場合 >

アジャスタを反時計方向に回します。



A. 伸側減衰力アジャスタ

1名標準値

1 1/4回転戻し(時計回りいっぱい
に回した位置から反時計回り)

注意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないでください。

リヤショックアブソーバの取り扱い方



警告

リヤショックアブソーバのガスタンクには、高圧の窒素ガスを封入しております。必ず下記の注意事項を守ってください。

- リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。もし火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。
- リヤショックアブソーバに穴を開けないでください。もし穴を開けるとオイルが吹き出し危険です。

106 各部の取り扱い方

要点

- ガスタンクバルブへの加圧は行わないでください。

- リヤショックアブソーバを廃棄するときは、ブライト取扱店にお申しつけください。

燃料の補給

ガソリンの補給



警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因となることがあります。次のことを必ず守ってください。

- タバコ等火気を近づけないでください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。



警告

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。

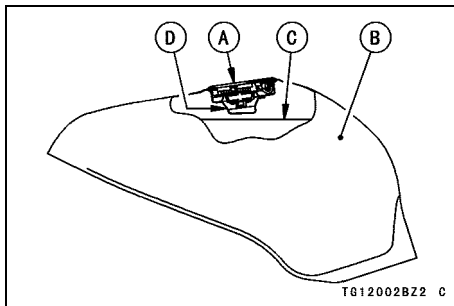
次のことを必ず守ってください。

- タンクキャップを開ける前に車体また、給油機等の金属部分に触れて身体の静電除去を行ってください。
- タンクキャップを開ける等、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お一人で行ってください。
- 給油口に他の人を近づけないでください。

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにノブキーを差し込み右に回すとタンクキャップが開けられます。

108 燃料の補給

- ガソリンを給油します。ガソリンは注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



- A. 燃料タンクキャップ
- B. 燃料タンク
- C. トップレベル
- D. レベルプレート

タンク容量: 22 L

使用燃料: 無鉛ハイオクガソリン

注意

この車には、無鉛ハイオクガソリンを使用してください。レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。

注意

必ず無鉛ハイオクガソリンを使用してください。

燃料を補給するときは、必ず無鉛ハイオクガソリンであることを確認してから行ってください。

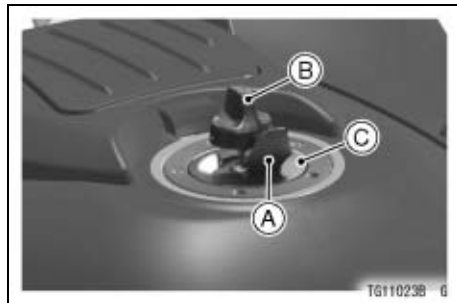
高濃度アルコール燃料を使用しないでください。

高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。

粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。

粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

- タンクキャップを閉じるときは、ノブキーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- ノブキーをLOCKの位置に回して抜きます。
- キーホールカバーを閉めます。



- A. キーホールカバー
- B. ノブキー
- C. 燃料タンクキャップ

要点

- タンクキャップはノブキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確

110 燃料の補給

実にロックされていないとノブキーは抜けません。



ガソリンをレベルプレートの下端以上入
れると、走行中にガソリンが膨張してタン
クキャップのブリーザ穴からにじみ出る
ことがあります。

燃料タンクキャップは確実に閉めてくだ
さい。

ガソリンがこぼれた場合は、布等で完全
に拭きとってください。

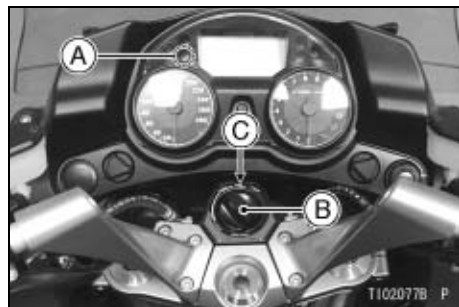
正しい運転操作

エンジンのかけ方

1. エンジンストップスイッチが  の位置になっているか確認します。
2. 携帯機を携帯し、ノブキーを押し込みます。
3. ノブキーシンボルが5秒間表示されます。その間にノブキーをONの位置にします。

要点

- ノブキーを押し込みONの位置にすると、ターンシグナルライトが2回点灯します。
4. ギヤをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータライトで確認します。
 5. スタータボタンを押します。



- A. ニュートラルインジケータライト
- B. ノブキー
- C. ONの位置

要点

- この車には、転倒した際、自動的にエンジンを止めるための転倒センサを採用しています。もし転倒した時は、警告灯が点灯します。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こしたあと、一旦ハンドルロック

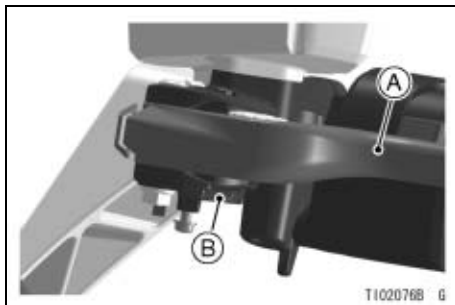
ユニットをOFFの位置にして、それから再度ハンドルロックユニットをONの位置にします。

 警告

排出ガスには一酸化炭素等の有害な成分が含まれており、風通しの悪い場所でエンジンを始動するとガス中毒を起こすおそれがあります。エンジンの始動、暖機運転は風通しの良い場所で行ってください。

要点

- スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが降りている時は、ニュートラル以外でエンジンはかかりません。



- A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

要点

- スタータボタンを押して5秒以内にエンジンが始動しない時は、一旦ハンドルロックユニットをOFFの位置にし、10秒くらい休んで

から再度ハンドルロックユニットをONの位置にしてスタータボタンを押してください。これはバッテリー電圧を回復させるためです。

- エンジンが始動してスタータボタンを放すと、ヘッドライトが点灯します。通常はヘッドライトをロービームにして走行してください。

要点

- 不必要な空ふかしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリーに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 600 kmを走行するまでは、下表のエンジン回転数以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転数
0 ~ 800 km	4 000 rpm
800 ~ 1 600 km	6 000 rpm

要点

- 不必要な空ふかし、急加速、急減速はつしんでください。
- 法定速度を守って走行してください。

走り方

1. サイドスタンドが完全に格納されているかを確認します。

要点

- サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが停止します。

警告

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となることがあります。

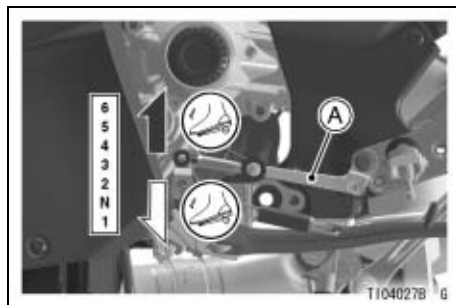
注意

サイドスタンドがスムーズに作動しない時は取り付け部に注油を行ってください。

2. クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。

要点

- 車が静止状態の時は、ニュートラルから1速にしか入りません。
- 3. 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

要点

- ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
- チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
- チェンジ操作が堅く感じられる時は、シフトレバーの外周部とシフトペダルのピボット部に注油を行ってください。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

注意

無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを痛める原因となります。走行中に異常を感じた時は、ただちにブライト取扱店で点検をお受けください。法定速度を守って走りましょう。

シフトダウンの仕方

追い越しするとき等強力な加速が必要な時は、シフトダウン(低速ギヤにチェンジ)をする
と加速力が得られます。あまり高い速度で行う
とエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、
ミッションに悪影響を与えます。各ギヤ共、5
000 rpm以下で行ってください。



警告

**急激なシフトダウンは、走行安定性をそ
こない転倒等の原因となりますので行わ
ないでください。**

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使いましょう。

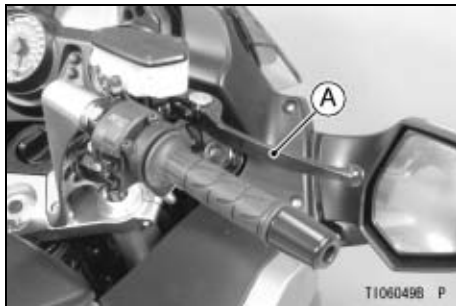


前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

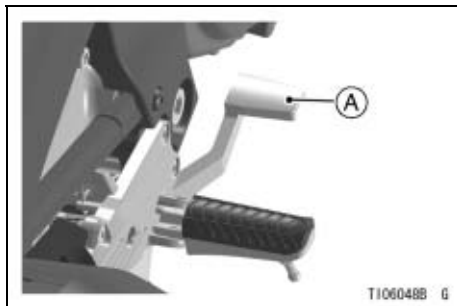
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。



急ブレーキをかけると横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは避けましょう。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

要点

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下る時等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇し

ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効が悪い時は、周囲の交通状況に十分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ：

走行中、スロットルグリップを戻した時にかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

アンチロックブレーキシステム(ABS)

直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないようにABSは設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に制御します。グリップ力とブレーキ力を断続的に得ることによって、車輪がロックすることを防ぎ、車が停止するまでライダーが安定したハンドル操作をできるようにします。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますのでよく覚えておいてください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の

車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。

- ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

要点

- コーナに入る前にシフトダウンをして、十分に減速してください。
- ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。



警告

必ず指定されたタイヤを使用してください。指定外のタイヤを使用するとABSは誤作動を起し、停止距離が長くなって事故につながるおそれがあります。

要点

- ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。
- 車速が6 km/h以下ではABSは作動しません。
- バッテリーが上がっている場合も、ABSは作動しません。

ABSインジケータライト

通常ABSインジケータライトは、ハンドルロックユニットをONの位置にしたとき点灯し、走り始めると消えます。

もし、インジケータライトが次のいずれかを示すときは、ABSに故障が起きた可能性があります。ブライツ取扱店でABSの点検をお受けください。

- ハンドルロックユニットをONの位置にしたとき、インジケータライトが点灯しない。
- 車が走り始めた後、インジケータライトが点灯したままになっている。

インジケータライトが点灯しているときは、ABSは作動しません。しかし、ABSが故障しても通常のブレーキシステムは正常に作動します。

要点

- ABSインジケータライトは、車の運転状況によって点灯する場合があります。(例えば、前輪または後輪が空転したとき。)この場合ハンドルロックユニットを一度、OFFの位置にし、再度ONの位置にしてください。

120 正しい運転操作

この操作をすることにより、ABSインジケータライトは、消灯しますが、車速が5 km/h以上で1分間以上走行した後でも、ABSインジケータライトが点灯したままになる場合は、ブライトレ取扱店でABSの点検をお受けください。

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- ギヤをニュートラルにします。
- ハンドルロックユニットを**OFF**の位置にします。

エンジンの非常停止

何らかの原因で、エンジンがスロットルコントロールを失うと非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、ハンドルロックユニットで停止できない時はエンジンストップスイッチを  の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

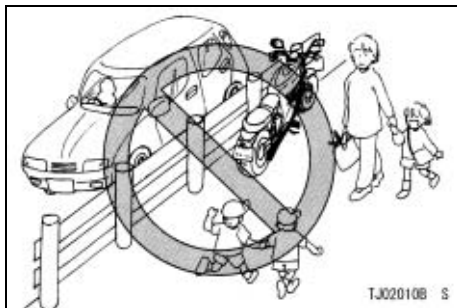
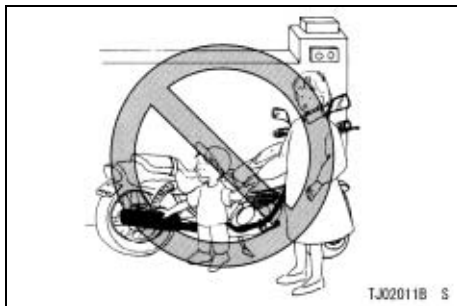
- 車を止め、ギヤをニュートラルにします。
- ハンドルロックユニットを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。



警告

坂道、砂利道やでこぼこな所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒するおそれがあります。

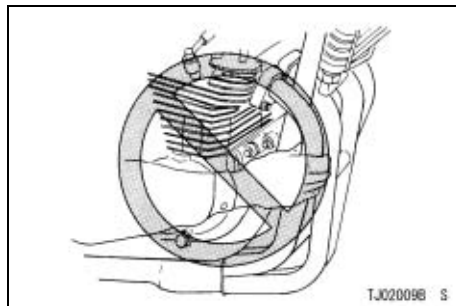
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車しましょう。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車する時は他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。

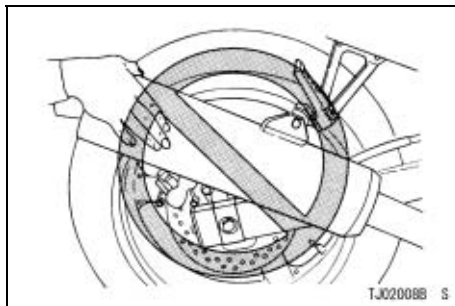


- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。

⚠ 警告

熱くなっているマフラ、エンジンに触れるとやけどをすることがあります。
エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。





- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車する時は、風通しが良く、火気のない所にします。



警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。

- ステアリングをロックします。盗難防止のため車から離れるときは必ずステアリングをロックしてください。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

二輪車については1年点検と2年点検があります。

なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

製造元が指定する点検整備

1. 1か月目(または1 000 km)点検整備

登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。

お買いあげいただいたブライト取扱店にてお受けください。

2. 製造元指定点検整備

法令で定められた定期点検整備項目のほかに、製造元が指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。また、総排気量が251 cm³以上の車は初回3年目、以降2年ごとの継続検査(車検)を受けなければ、引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全・快適にご使用いただくために」をご覧ください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。



警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。

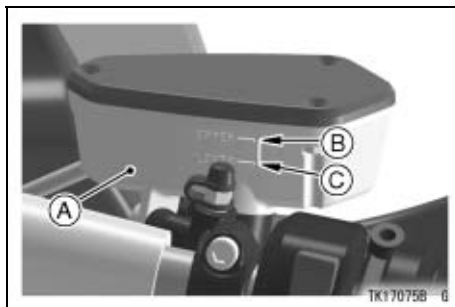
難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はブライツ取扱店にご相談ください。

整備するときは、安全に十分注意してください。

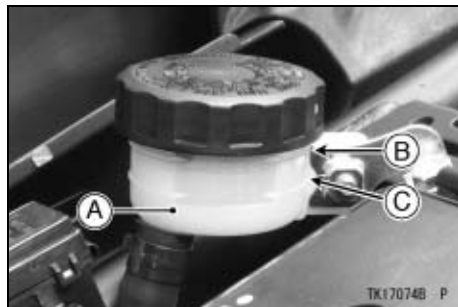
- 場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジンを停止し、ノブキーをOFFの位置にしてください。
- 排出ガスには一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行う時は、通気性の良い場所で行ってください。
- エンジン停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。
- 適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをするおそれがあります。

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバタンクを水平にします。
- リザーバタンク内のブレーキの液量がロア (LOWER) レベル以上の範囲にあるかを点検します。



- A. フロントブレーキリザーバ
B. アップ (UPPER) レベルライン
C. ロア (LOWER) レベルライン



- A. リアブレーキリザーバ
B. アップ (UPPER) レベルライン
C. ロア (LOWER) レベルライン

要点

- もし液面がロア (LOWER) レベル以下の場合は、ブライト取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

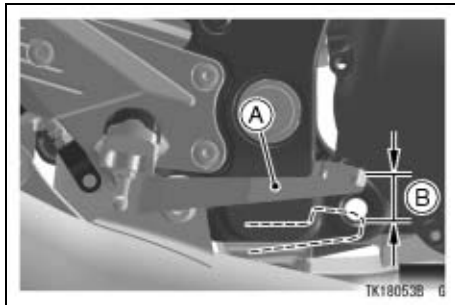
液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。ブレーキ液が早く減少するようでしたらブレーキ系統からの液漏れが考えられますので、ブライト取扱店で点検をお受けください。
ブレーキ液は安全のため、1年毎の交換をおすすめします。

注意

ブレーキ液の変質を防ぐため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。

ブレーキライトスイッチの調整

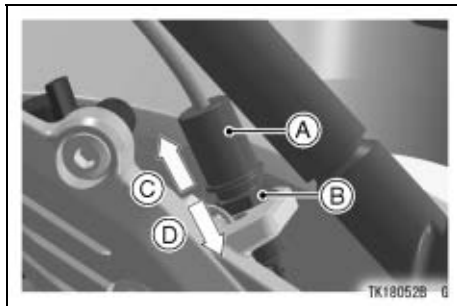
リヤブレーキライトスイッチはブレーキペダルを約10 mm踏み込んだ時にブレーキライトが点灯するか点検します。



A. ブレーキペダル

B. 10 mm

リヤブレーキライトスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、取り付けナットを回して行います。スイッチの取り付け位置が高くなれば早く点灯し、低くなれば遅く点灯します。



- A. リヤブレーキライトスイッチ
- B. 取り付けナット
- C. 早く点灯
- D. 遅く点灯

注意

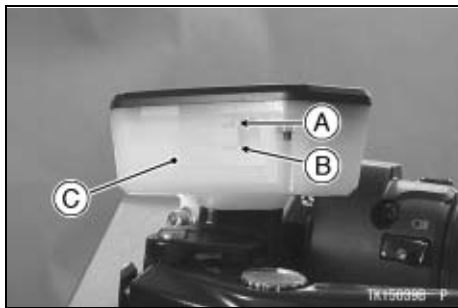
リヤブレーキライトスイッチを調整する際、配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

フロントブレーキをかけた時もブレーキライトが点灯するか点検します。

もし、異常があればブライツ取扱店で点検をお受けください。

クラッチ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバタンクを水平にします。
- リザーバタンク内のクラッチの液量がロア (LOWER) レベル以上の範囲にあるかを点検します。



- A. アップ (UPPER) レベルライン
B. ロア (LOWER) レベルライン
C. クラッチリザーバ

要点

- もし液面がロア (LOWER) レベル以下の場合、ブライト取扱店にご相談ください。

警告

液面はクラッチプレートの摩耗と共に下がってきます。クラッチ液が早く減少するようでしたら、クラッチ系統からの液漏れが考えられますので、ブライト取扱店で点検をお受けください。
クラッチ液は安全のため、1年毎の交換をおすすめします。

注意

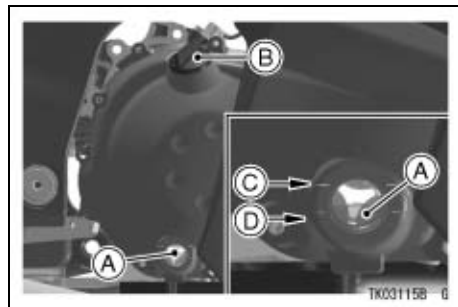
クラッチ液の変質を防ぐため、銘柄の異なるクラッチ液を使用しないでください。クラッチ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。

エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを止めます。

要点

- 走行直後でエンジンが十分に暖機していればアイドリング運転は不要です。
- 車体を垂直にし、エンジンを止めて2～3分後に、オイル量がオイルレベルゲージのアップレベルとロアレベルの間にあることを確認します。
- オイル量がロアレベルに近ければ、オイルフィラキャップを取り外し、オイルレベルゲージで確認しながらアップレベルとロアレベルの中間まで、エンジンオイルを補給します。



- A. オイルレベルゲージ
- B. オイルフィラキャップ
- C. アップレベル
- D. ロアレベル

132 簡単な整備

< 推奨オイル >

カワサキ純正4サイクルオイル

R4 SJ 10W-40 JASO MA

S4 SG 10W-40 JASO MA

T4 SF 10W-40 JASO MA

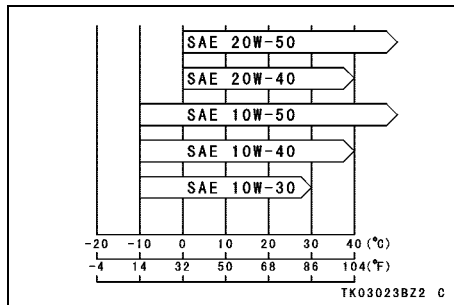
または

API SFまたはSG

API SH, SJまたはSL (JASO MA適合)

SAE 10W-40

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考に
して使用する地域の外気温によって使いわ
けてください。なお、上記の推奨オイルと同じ
API分類とSAE規格のエンジンオイルでも、そ
れぞれオイルの特性等が微妙に異なっている
ため、この車には適合しない場合があります。



<エンジンオイル交換時期>

初回： 1 000 km時

2回目： 6 000 km時

以後： 6 000 km毎

<エンジンオイル量>

オイルフィルタを取り外さなかった時	4.0 L
オイルフィルタを取り外した時	4.4 L
分解時	4.7 L

<オイルフィルタ交換時期>

初回： 1 000 km時

2回目： 18 000 km時

以後： 18 000 km毎

要点

- 補給する時には、オイル注入口からごみ等が入らないようにしてください。
- オイル量は、規定範囲の上限(アッパレベル)を超えないようにしてください。



警告

エンジン暖機運転後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジンが熱くなっています。触れてやけどしないようにしてください。

オイルをこぼした時は、完全に拭きとってください。

注意

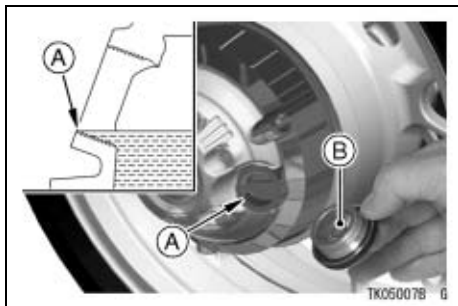
銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでブライト取扱店にご相談ください。

134 簡単な整備

ファイナルギヤケースオイルの補給

- センタスタンドを使って、車体を垂直にします。
- ファイナルギヤケースのオイルフィラキャップをはずします。
- オイルレベルを点検します。オイルはオイル注入口にある上側のねじ部までであるのが正規です。もし、オイルレベルが低いときは、正規のレベルまでギヤオイルを補給します。



A. 上側のねじ部

＜推奨オイル＞

カワサキ純正ギヤオイルGL-5またはファイナルギヤオイルAPI GL-5級SAE90

＜ファイナルギヤケースオイル交換時期＞

初回： 1 000 km時

2回目： 12 000 km時

以後： 12 000 km毎

＜オイル量＞

160 cc

要点

- 補給する時には、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。



警告

オイルをこぼした時は、完全に拭きとってください。

注意

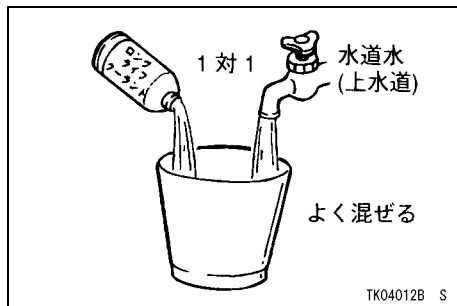
銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでブライト取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水(上水道)を1:1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

クーラントには毒性があります。取り扱いには十分注意してください。

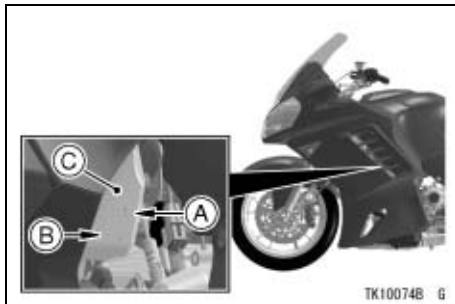
- 皮膚や衣類についた場合すみやかに水で洗ってから、セッケン水で洗ってください。
- 目に入った場合水で十分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- 飲んだ場合直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

混合または補充する水は水道水(上水道)を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水は使用しないでください。

冷却液の点検

- 運転者用シートを取り外します。
- リザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面がL(下限)マークラインより下がっていないかどうか点検します。



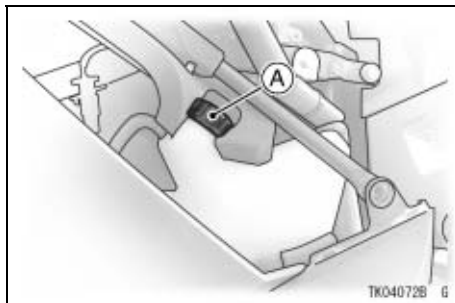
- A. F(上限)マークライン
- B. L(下限)マークライン
- C. リザーブタンク

冷却液の補給

- 前側のレフトサイドカバーを取り外します。
(前側のレフトサイドカバーの取り外しにつ

いては「エアクリーナエレメントの交換」の項目を参照してください)

- リザーブタンクキャップをはずし、タンクのF(上限)マークラインまで冷却液を補給します。

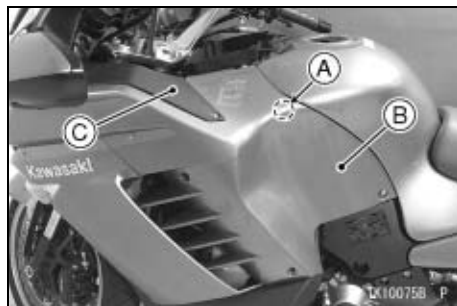


A. リザーブタンクキャップ

要点

- 冷却液はF(上限)マークラインを超えて入れないでください。

- リザーブタンクにリザーブタンクキャップを取り付けます。
- 前側のレフトサイドカバーを取り付けます。



- A. 突起部
- B. レフトサイドカバー(前側)
- C. レフトインナカバー

要点

- レフトインナカバーのタブが前側のレフトサイドカバーの突き出し部分に挿入されているのを確認してください。

警告

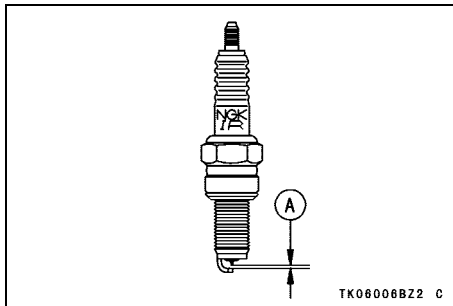
冷却液の温度が高いとき、急にラジエータキャップを取り外すと蒸気や熱湯が吹き出し危険です。水温が下がってから、布等でキャップを包み、静かに取り外してください。

注意

冷却液の減り具合が著しい時は、ラジエータ本体、ホース等からの液漏れが考えられますので、ブライト取扱店で点検をお受けください。

スパークプラグ

指定スパークプラグはNGK CR9EIA-9です。プラグギャップは0.8 ~ 0.9 mm、締め付けトルクは13 N・m (1.3 kgf・m)です。



A. 0.8 ~ 0.9 mm

注意

スパークプラグを交換する時は、指定スパークプラグ以外は使用しないでください。

要点

- スパークプラグの取り付け、および取り外しはブライト取扱店にご相談ください。

エアクリーナエレメントの交換

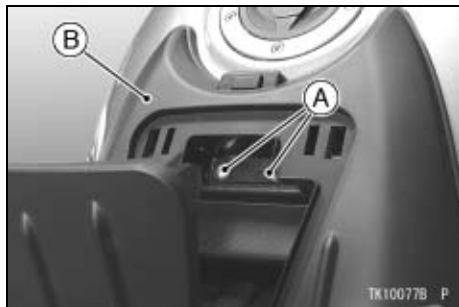
エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因となります。

この車のエアクリーナエレメントは、ろ紙にオイルを含ませたエアクリーナエレメントを使用しているため、清掃は出来ません。

エアクリーナエレメントの取り外し

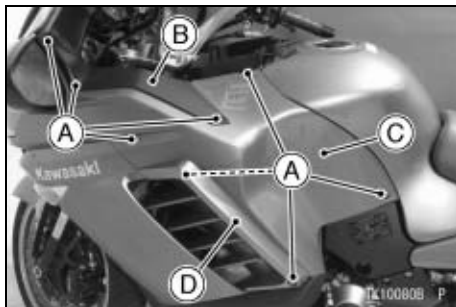
- 小物入れのスクリュをはずし、小物入れを取りはずします。

140 簡単な整備



- A. スクリュ
- B. 小物入れ

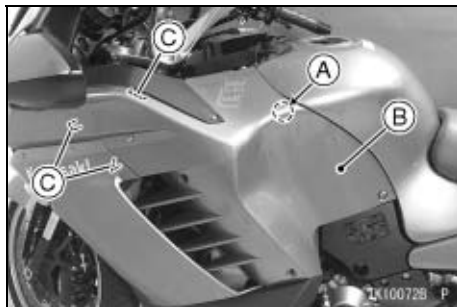
● レフトインナカバーと前側のレフトサイドカバーのボルトを取り外します。



- A. ボルト
- B. レフトインナカバー
- C. レフトサイドカバー(前側)
- D. カウルカバー

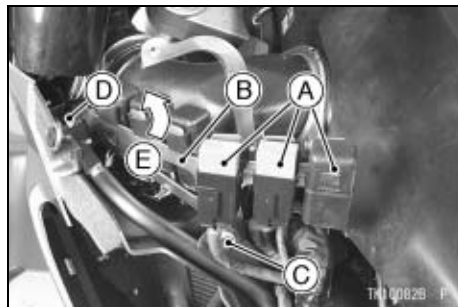
要点

- 最初に、前側のレフトサイドカバーの後部をゆっくりと引き出し、突起部を取り外します。次に、前側のレフトサイドカバーを後方に引いて、タブを取り外します。



- A. 突起部
- B. レフトサイドカバー(前側)
- C. タブ

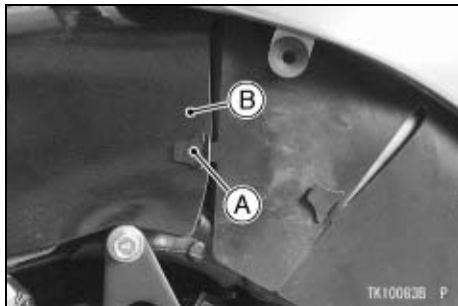
- ボルトを緩め、ブラケットからボルトを取り外します。
- ブラケットからリレーを取り外し、ブラケットを上方向に回します。



- A. リレー
- B. ブラケット
- C. ボルト(取り外す)
- D. ボルト(ゆるめる)
- E. 上方向に回す

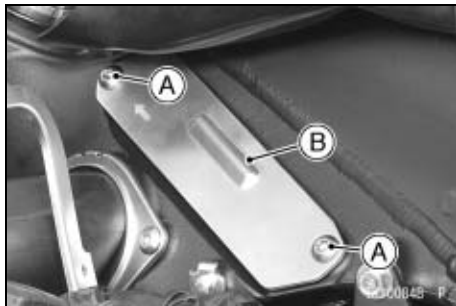
- ジョイントを切り離して、ゴムカバーを取り外します。

142 簡単な整備



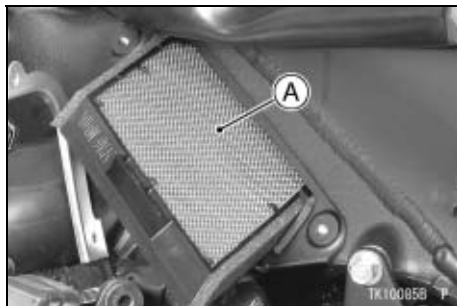
- A. ジョイント
B. ゴムカバー

- エアクリーナハウジングカバーのボルトを取り外し、フレームの左側にあるカバーを取り外します。



- A. ボルト
B. エアクリーナハウジングカバー

- エアクリーナエレメントを抜き取ります。



A. エレメント

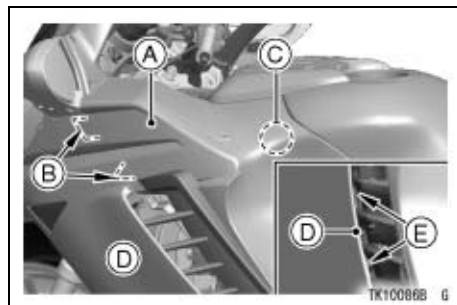
- ごみやほこり等が入らないようにエアクリーナハウジングをきれいな布でおおいます。

要点

- エアクリーナエレメントおよび取り外した部品の取り付けは、取り外しの逆順で行います。
- 前側のレフトサイドカバーを取り付ける場合には、最初にカバーのタブをカウルカバー

に挿入し、次に、突起部をそれぞれ挿入します。

- 前側のレフトサイドカバーの端が前側センタレフトサイドカバーのフックに挿入しているか確認してください。



- A. レフトサイドカバー(前側)
- B. タブ
- C. 突起部
- D. センタレフトサイドカバー(前側)



警告

ごみやほこりがスロットルボデーに入ると、スロットルの引っ掛かり等の原因となり、事故につながるおそれがあります。

注意

エアクリーナエレメントは確実に取り付けてください。取り付けが不完全であると、ごみやほこりを直接吸ってエンジントラブルの原因となります。

エアクリーナエレメントの交換

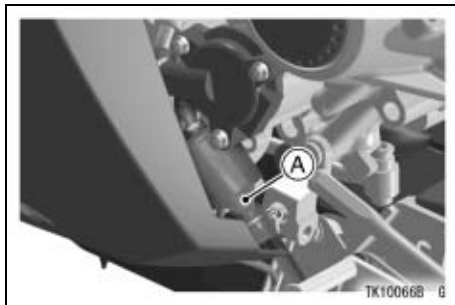
- 老化、損傷があれば再使用は行わないでください。

要点

- 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間より早めに点検、および交換を行ってください。

オイルの排出

- エンジンの左下側にある透明のリザーバに、水やオイルが溜っていないか点検します。



A. リザーバ

- リザーバに水やオイルが溜まっていたら、受皿を置き、ホース下端のプラグをはずして排出します。
- 排出後、プラグは必ず元通りに取り付けます。

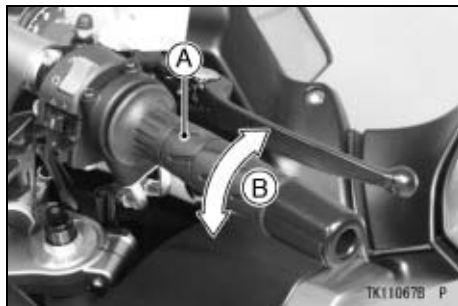
**警告**

プラグは必ずしっかりと取り付けてください。もしプラグが、しっかりと取り付けいていないとオイルが漏れてタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなって事故の原因となります。

スロットルケーブルの遊び調整

ケーブルがたるんでいると、スロットルの開度に対してエンジンレスポンスが遅れます。また、ケーブルが張りすぎていると、グリップに遊びがなくなり、操作しにくくなります。

スロットルグリップに2～3 mmの遊びがあるのが正規です。もし、スロットルグリップの遊びが正規でない場合は、スロットルケーブルを調整します。



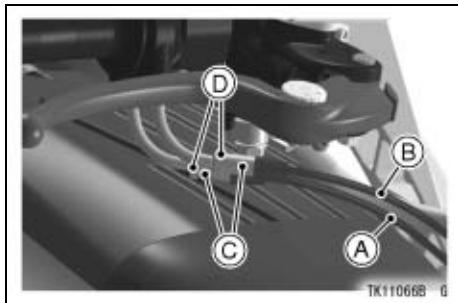
A. スロットルグリップ

B. 2～3 mm

146 簡単な整備

調整

- ロックナットをゆるめます。
- アジャスタを回して調整します。
- ロックナットをアジャスタの方へ締め付けます。



- A. 閉じ側ケーブル
- B. 開き側ケーブル
- C. アジャスタ
- D. ロックナット

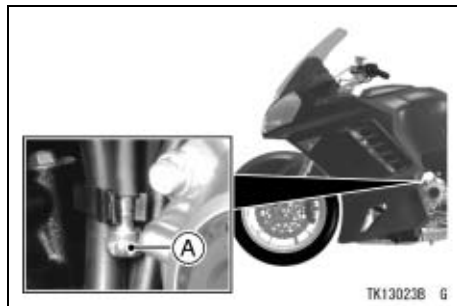
アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度の調整はアイドルアジャスティングスクリューで行います。

- 十分に暖機運転をします。
- アイドルアジャスティングスクリューを回して調整します。

[アイドリング回転速度]

標準値: 1 050 ~ 1 150 rpm



A. アイドルアジャスティングスクリュー

- 数回空ふかしして、アイドリング回転速度に変化がない事を確認します。必要ならば再調整します。

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

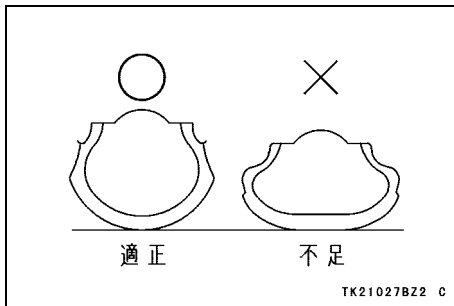


警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

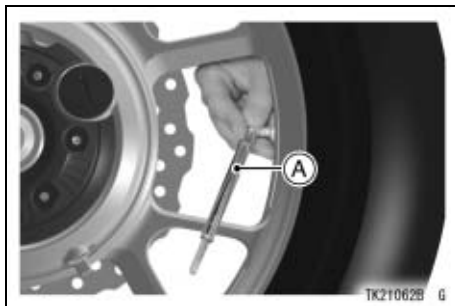
空気圧

常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えている時に、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



要点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が目ではわかりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。



A. タイヤゲージ

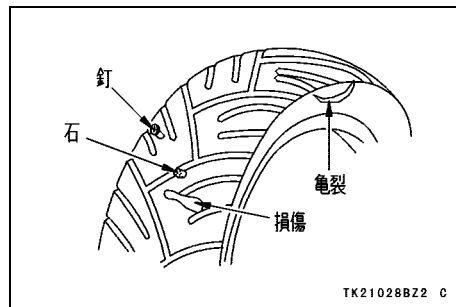
		前輪	後輪
タイヤ空気圧		290 kPa (2.90 kgf/cm ²)	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)
タイヤサイズ		120/70 ZR17 M/C (58 W)	190/50 ZR17 M/C (73 W)
指定 タイヤ	ブリヂストン	BT021F RADIAL E チューブレス	BT021R RADIAL E チューブレス

要点

- この車の最大積載荷重は、運転者、同乗者、荷物、アクセサリ部品を含めて180 kg までです。

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



要点

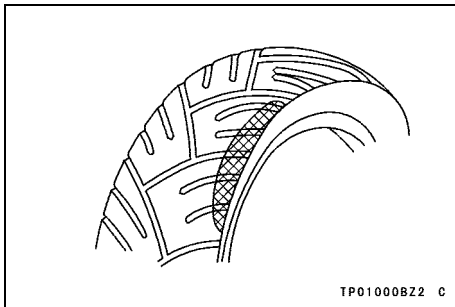
- 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えた時は、必ず点検してください。

150 簡単な整備

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、ブライト取扱店にご相談ください。



溝の深さ

コーナリング、操縦安定性、更に安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが前輪**1mm**、後輪**2mm**以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、ブライト取扱店にご相談ください。



A. ディプスゲージ



警告

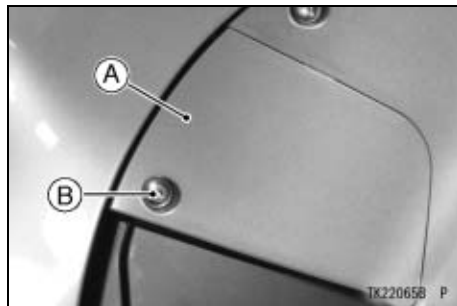
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

バッテリーターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食がある場合はバッテリーを取り外して清掃します。

バッテリーの取り外しおよび取り付け方

- 前側のライトサイドサブカバーを取り外します。

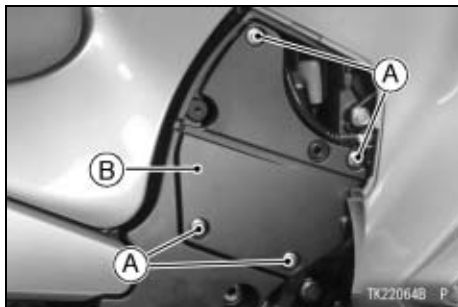


A. ライトサイドサブカバー（前側）

B. ボルト

- バッテリーカバーを取り外します。

152 簡単な整備



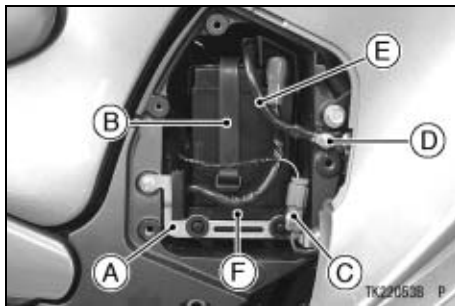
A. ボルト
B. バッテリーカバー

注意

バッテリートレを引き出すときは、バッテリーを落とさないように注意してください。バッテリートレを強く引っ張らないでください。他のリード線、またはケーブルが断線するおそれがあります。

- バッテリー(－)リード線の取り付けボルトを取り外します。

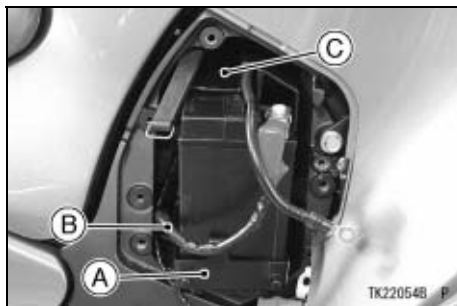
- バッテリーホルダブラケットを取り外します。
- (－)ターミナルコネクタを取り外します。
- ゴムバンドを取り外します。



A. バッテリーホルダブラケット
B. ゴムバンド
C. (－)ターミナルコネクタ
D. ボルト
E. バッテリー(－)リード線
F. バッテリートレ

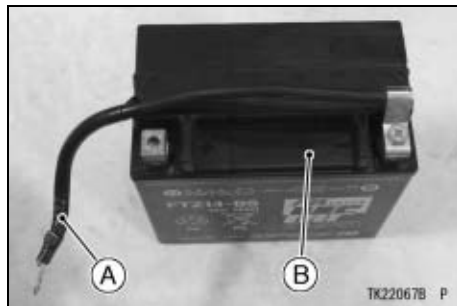
- バッテリートレを少し手前に引き出します。
- バッテリー(＋)リード線をバッテリーから取り外します。

- バッテリトレーと一緒にバッテリーを引き出します。
- バッテリアップカバーを取り外します。



- A. バッテリトレー
B. バッテリ(+)リード線
C. バッテリアップカバー

- バッテリ(−)リード線をバッテリーから取り外します。



- A. バッテリ(−)リード線
B. バッテリ

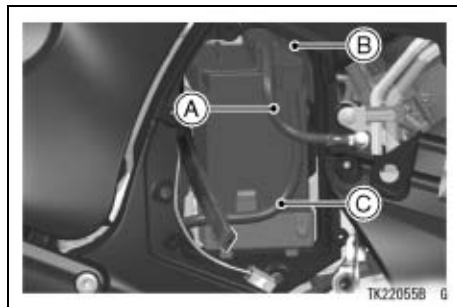
バッテリーの取り付け方

- バッテリーの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- バッテリトレーにバッテリーを置きます。
- (+)のリード線を接続し、それから(−)のリード線を接続し、(+)リード線についているキャップをかぶせます。

注意

バッテリーリード線の接続を逆にしないでください。電気部品が損傷するおそれがあります

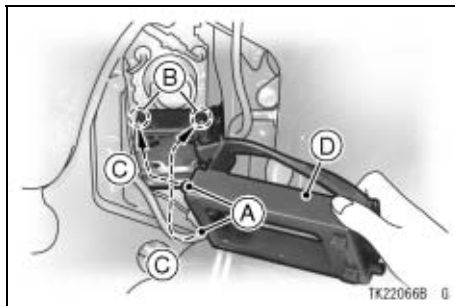
- バッテリーにバッテリーアッパカバーを置きます。
- メインフレームにバッテリーをバッテリートレイとともに挿入します。
- 赤いキャップの付いたケーブルをバッテリー(+)端子に接続します。
- バッテリー(+)端子に保護キャップをかぶせます。
- バッテリー(-)リード線の取り付けボルトをフレームに締め付けます。
- 図に示された経路で、ケーブルを通します。



- A. バッテリー(-)リード線
- B. バッテリーアッパカバー
- C. バッテリー(+)リード線

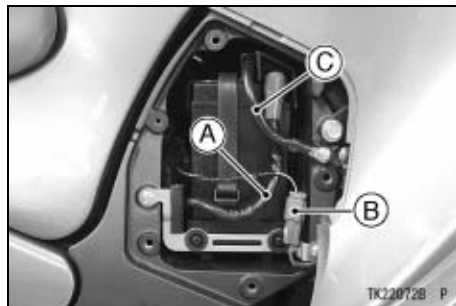
要点

- バッテリートレイをメインフレームへ挿入するときは、バッテリートレイの突起部を、メインフレームの穴に挿入してください。



- A. 突起部
B. 穴
C. 挿入する
D. バッテリトレ

- バッテリトレにゴムバンドを引っ掛けて、バッテリーホルダブラケットを取り付けてください。
- (－)ターミナルコネクタを接続します。
- それぞれのリード線が正しく配線されているかどうか確認します。



- A. バッテリ(+)リード線
B. (－)ターミナルコネクタ
C. バッテリ(－)リード線

- バッテリカバーを取り付けます。

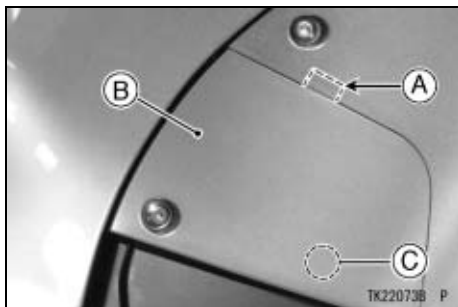
注意

バッテリーカバーでリード線を挟み込まないようにしてください。

- 前側のライトサイドサブカバーを取り付けます。

要点

- 前側のライトサイドサブカバーを取り付ける場合には、最初に、カバーのタブを前側のライトサイドカバーの下部に挿入し、次に、突起部をそれぞれ対応する穴に挿入します。



A. タブ

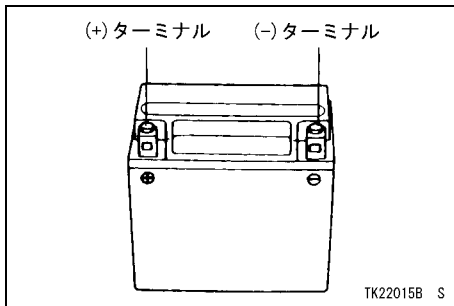
B. ライトサイドカバー(前側)

C. 突起部

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリーターミナル部の清掃

- ターミナル部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、リード線を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。



 警告

バッテリー液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。新品のバッテリーにバッテリー液を注入する時、体、衣服、車体等に付着しないように十分注意してください。万一、目や皮膚等に付着した時はすぐに多量の水で、5分間（目の場合は15分間）以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発するおそれがあります。

- バッテリーの整備を行う時は、必ずエンジンを停止させてください。
- 作業中、バッテリーの（+）（-）端子が工具等により、ショートしないように注意してください。
- リード線を取り外す場合は、（-）端子から取り外してください。また、取り付ける場合は（+）端子を先に取り付けてください。リード線に緩みが生じないように確実に、接続してください。
- バッテリーにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電層割れの原因になります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

注意

この車のバッテリーにはシール形バッテリーを使用しています。このバッテリーは寿命になるまで液の補充の必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。

バッテリーを交換する場合は、必ず同形式のバッテリーをご使用ください。

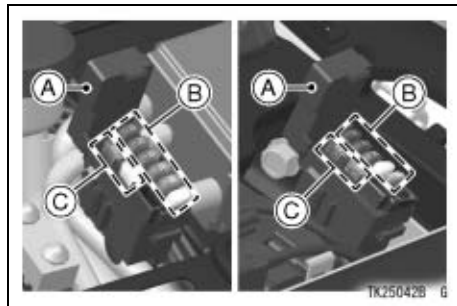
使用済みのバッテリーを廃棄する場合は、ブライツ取扱店にご相談ください。

要点

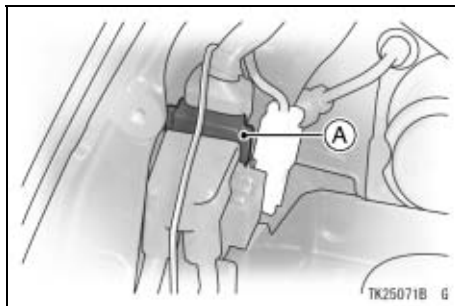
- エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリーが放電しています。バッテリーの充電をブライツ取扱店にご相談ください。

ヒューズの交換

メインヒューズとヒューズは運転者用シート下と同乗者用シート下のヒューズボックスにあります。

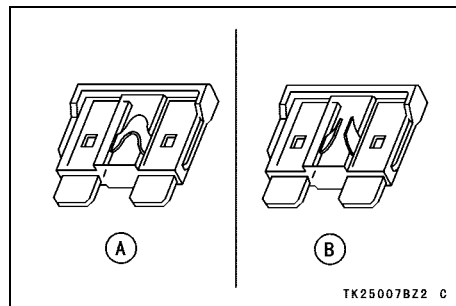


- A. ヒューズボックス
- B. ヒューズ
- C. スペアヒューズ



A. メインヒューズ

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。



A. 正常
B. 切れた状態



警告

指定容量を超えるヒューズ、針金、銀紙等は、配線の過熱、焼損の原因になりますので使用しないでください。

要点

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。ブライト取扱店へご相談ください。
- スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代りのスペアヒューズを補充してください。

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。すみずみまで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

主な注意事項

- 洗車はエンジンとエキゾーストパイプ等が冷えているときに行ってください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤにクリーナー等がかからないようにしてください。

注意
コンパウンド入りのワックス等で、塗装面や樹脂部品を強く磨くと、色むらあるいは傷が入るおそれがあります。

- ワックス、洗剤等はコンパウンドを含んでいないものをご使用ください。
- ガソリン、ブレーキフルード、クラッチフルードおよび冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらの部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。
- 硬いブラシ、またはやすり等は、ご使用にならないでください。
- 樹脂部分を傷めないように、十分に注意をしてください。
- 高压洗車機を使用しての洗車は行わないでください。特に可動部分や、電装品に水がかかると作動不良や故障の原因となります。

162 車のお手入れ

- 洗車の前に次の部分に水がかからないようにしてください。

- ハンドルロックユニット.....ノブキー差し込み口にビニールテープを貼る。
- マフラ後部.....ビニール袋でカバーする。
- クラッチレバーとハンドルスイッチボックス.....ビニール袋でカバーする。
- エアクリーナの吸入口.....ガムテープ、または布でふさぐ。
- フロントブレーキレバーとライトスイッチボックス.....ビニール袋でカバーする。
- シート.....ビニール袋でカバーする。

- 次の部分には強く水をかけないでください。
 - リヤハブ
 - メータユニット
 - ヘッドライト
 - ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
 - タンクキャップとシートの下、およびサイドカバー内の電装品（イグニッションコイル、スパークプラグ等が著しく濡れると漏電

によりエンジンが始動しなくなることがあります)

- フロント／リヤホイールのハブ
- ステアリングステムヘッドパイプ部
- スイングアームのピボット部
- 燃料タンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム

洗車

- 水を流しながら柔らかい布やスポンジを使って汚れを落とし、水分を拭きとってください。拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- 汚れが落ちにくいときは、中性洗剤を使って拭きとり、水で十分に洗い流し、水分を拭きとってください。
- エンジンを始動し、数分間アイドリングをさせてください。エンジンの熱が水分を乾燥させます。
- 防錆のため、洗車後は各可動部の給油を行ってください。



警告

- 洗車後はブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りを乾燥させてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックス、オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。
- ディスクやパッドにオイルが付着した場合は、乾燥後オイル成分が残らないような洗浄油で洗浄してください。また、完全に洗浄しきれない時は、パッドを交換してください。

要点

- 海岸地域や路面凍結防止剤を散布した路面を走行した後は直ちに水洗いをしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。

い。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆油をスプレーしてください。

- 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に「結露」による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇った時は、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させます。しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

塗装面

洗車後はワックスがけしてください。ワックスは3か月に一度、または必要に応じてかけてください。

要点

- それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後は

164 車のお手入れ

カワサキ純正プラスチックポリッシュをかけてください。

注意
樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となりますので、付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。 コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れるおそれがありますので、使用しないでください。

ビニール、クロームメッキ、アルミ部品

ビニール、クロームメッキや塗装をしていないアルミ部品には、中性洗剤またはカワサキ純正バイククリーナを使って汚れを落としてから、水で十分に洗い流し、水を拭きとってください。洗車後はアルミ部品にカワサキ純正プラスチックポリッシュをかけてください。

注意
コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は傷をつけるおそれがありますので、使用しないでください。

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は次の要領で手入れをしてください。

注意

油脂類の廃油は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでプライト取扱店にご相談ください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗淨します。
- エンジンを十分に暖機後、エンジンを止めます。そしてエンジンオイルを抜き取ります。
- ドレンプラグを取り付け、新しいエンジンオイルを入れます。
- 燃料タンクの燃料をすべて抜き取ります。



警告

燃料を抜き取る時は、通気性の良い、火気のない場所で行ってください。

- バッテリーを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、湿度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリーの補充電を行ってください。
- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。
- メッキ部には防錆油をスプレします。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用する時には

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

166 長期間の格納

前輪	290 kPa (2.9 kgf/cm ²)
後輪	290 kPa (2.9 kgf/cm ²)

- バッテリーの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します。

環境保護について

● 車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、ブライト取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

● 廃棄二輪車取扱店とは？

(社)全国軽自動車協会連合会に登録されているブライト取扱店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証(230 mm × 200 mm)

● 二輪車リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適性に処理し、再資源化するための費用です。

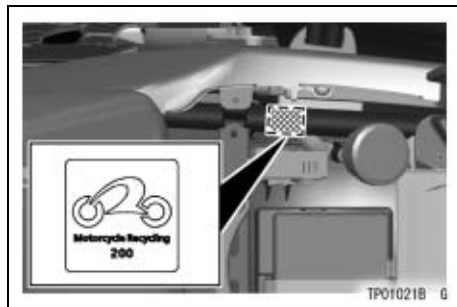
二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けられている二輪車は、リサイクル費用がブライト参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する

168 環境保護について

費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

● 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体から剥がさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。リサイクルマークのはがれ等により、リサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、(財)自動車リサイクル促進センターホームページで確認していただくか、二輪車リサイクルコールセンターにお問い合わせください。



二輪車リサイクルマーク(30 mm × 30 mm)

● 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問合せください。

- (財) 自動車リサイクル促進センター
ホームページ <http://www.jarc.or.jp/>
- (財) 自動車リサイクル促進センター内
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号 03-3598-8075
受付時間 9時30分～17時00分
(土日・祝日・年末年始を除く)

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていたければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、ブライト取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

● スタータが回らないとき

- ギヤがニュートラルになっていますか。
- エンジンストップスイッチが  の位置になっていませんか。
- ヒューズが切れていませんか。
- バッテリリード線はきちんと接続されていますか。
- バッテリはあがっていませんか。

● スタータは回るが始動しないとき

- 燃料タンクに燃料が入っていますか。
- 燃料系統が詰まっていませんか。
- 燃料の品質が低下していませんか。
- スパークプラグはかぶっていませんか。
- スパークプラグは緩んでいませんか。
- スパークプラグは正常ですか。
- スパークプラグギャップは正常ですか。
- 転倒後、一度ハンドルロックユニットをOFFの位置にしましたか。

エンジンが止まる

● 1速に入れたとき

- クラッチの切れは正常ですか。
- サイドスタンドが降りたままになっていませんか。

170 万一の故障に備えて

- 走行中に

- 燃料は入っていますか。
- 燃料タンクキャップのエアベントが詰まっていませんか。
- エンジンオイルはありますか。
- バッテリーはあがっていませんか。

ZG1400A



神戸市中央区栄町通り2-2-2